

平成16年度（第48回）
岩手県教育研究発表会発表資料

国 語

中学校国語科における豊かな言語感覚の育成を めざした指導に関する研究

—相互評価を取り入れた表現活動をとおして—

平成17年2月8日
長期研修生
所属校 花巻市立湯本中学校
富 永 秀 寿

<目 次>

I	研究目的	1
II	研究仮説	1
III	研究の内容と方法	1
1	研究の内容	1
2	研究の方法	2
3	授業実践の対象	2
IV	研究結果の分析と考察	2
1	中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本構想	2
(1)	中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本的な考え方	2
(2)	相互評価を取り入れた表現活動を行うことについて	3
(3)	相互評価を取り入れた表現活動の指導の展開	4
(4)	中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本構想図	4
2	手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察	4
(1)	実態調査の目的と内容	4
(2)	調査結果の分析と考察	4
(3)	実態調査から明らかになった問題点と課題	6
3	相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案	7
(1)	手だての試案作成の観点	7
(2)	手だての試案作成	7
(3)	検証計画及び調査計画	7
4	授業実践及び実践結果の分析と考察	9
(1)	単元「マスメディアを通じた現実世界」の指導計画及び学習指導案	9
(2)	相互評価を取り入れた表現活動を行う授業実践の概要	11
(3)	実践結果の分析と考察	16
5	中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する研究のまとめ	19
(1)	成果	19
(2)	課題	19
V	研究のまとめと今後の研究推進について	19
1	研究のまとめ	19
2	今後の研究推進について	20

<おわりに>

【参考文献】

【補充資料】

I 研究目的

言語感覚とは言語の使い方の正誤・適否・美醜などをとらえる感覚のことである。生徒の言語生活を一層充実させるために、具体的な言語活動の中で表現の適切さを判断させたり、表現の豊かさを味わわせたりして言語感覚を育成していくことが求められている。

生徒の実態を見ると、授業の課題に対しては活発に答えるものの、場面や状況に応じて自分の意見や心情を適切な言葉で表現することが苦手である。これは、様々な文章の中で具体的な表現をとおして内容を的確に読み取ったり、表現の効果を実感したりする言語感覚が十分に育成されなかったことによるものと考えられる。

このような状況を改善していくためには、言語感覚をとらえる視点を明確にしなければならない。その上で、言語感覚に気付かせる相互評価を取り入れた表現活動を教材文の読解指導の中で行う必要があると考える。

そこで、本研究は、中学校国語科において、言語感覚をとらえる相互評価を取り入れた表現活動をとおして、豊かな言語感覚の育成をめざした指導について明らかにし、国語科の学習指導の改善に役立てようとするものである。

II 研究仮説

中学校国語科の説明的な文章の指導において、表現の正誤・適否・美醜をとらえる視点を明確にし、生徒の相互評価を取り入れた表現活動を行うならば、生徒の豊かな言語感覚が育成されるであろう。

III 研究の内容と方法

1 研究の内容

- (1) 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導に関する基本構想の立案
中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導に関する基本的な考え方と育成する力を明らかにするとともに、仮説に基づき、豊かな言語感覚を育成する学習指導についての基本構想を立案する。
- (2) 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導に関する実態調査及び調査結果の分析と考察
生徒の話合いに対する意識の実態を調査し、その分析と考察を行い、問題点と課題を把握し、手だての試案の作成に役立てる。
- (3) 相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案の作成
基本構想及び実態調査に基づき、相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案の作成に役立てる。
- (4) 授業実践及び実践結果の分析と考察
相互評価を取り入れた表現活動を行う学習指導について、手だての試案に基づき、単元「マスメディアを通じた現実世界」の授業実践を行う。
検証計画に基づいて、言語感覚の育成状況について分析と考察を行う。
- (5) 豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導に関する研究のまとめ
実践結果の分析と考察に基づいて、中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導に関する研究のまとめをする。

2 研究の方法

(1) 文献法

先行研究や文献を参考にし、中学校国語科における豊かな言語感覚を育成する学習指導に関する基本構想を立案する。

(2) 質問紙法

選択法による調査問題を用いて、生徒の相互評価を取り入れた表現活動に関する意識の実態調査を行う。

(3) テスト法

言語感覚の育成状況について把握するために、研究者が作成した問題でテストを実施し、その結果について分析し考察する。

(4) 授業実践

研究者が手だての試案に基づいた授業実践を行い、手だての試案の妥当性について検証する。

3 授業実践の対象

花巻市立湯本中学校 第3学年2学級（男44名 女32名 計76名）

IV 研究結果の分析と考察

1 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本構想

(1) 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本的な考え方

ア 国語科における言語感覚とは

言語感覚については、小学校学習指導要領解説―国語編―及び中学校学習指導要領解説―国語編―に示されているように「言葉の使い方の正誤・適否・美醜などについての鋭い感覚」であり、「言語活動の具体的な場面で、どのような表現が適切であるかを判断したり、与えられた表現を適切に味わったりする能力を支えるような言語に対する感覚」ととらえられている。そして、表現したり理解したりする際にはたらく言語感覚を發揮させながら、児童生徒の発想や考え方を創造する思考力や想像力、判断力、直観力等と関連させることの重要性が強調されている。

イ 豊かな言語感覚を育成することの意義

豊かな言語感覚を育成することは、生徒の言語生活や言語活動を一層充実させ、かつ個性的なものにしていくために極めて重要である。豊かな言語感覚を育成するためには、自分自身の驚きや疑問、感じ取ったことを他者のものと比較することによって同意したり、反発したり、修正したりする言語活動が重要である。すなわち、生徒一人一人が言語に対してもつ正誤・適否・美醜などの感覚によって、表現や意味、言葉の使い方を比べる評価活動が重要な意味を

【表1】言語感覚として育成する力

育成する力	具体的内容
①表現の正誤をとらえる力	その言語の使い方は正しいか。語の使い方や文の組み立て方について、言語規範(文法)にあっているか否かを判断・評価する能力
②表現の適否をとらえる力	その表現は適切か。表現の妥当性を判断・評価する能力
③表現の美醜をとらえる力	どんな感じの表現か。表現の微妙なニュアンスや効果、表現の美的価値を判断・評価したり味わったりする能力

すなわち、生徒一人一人が言語に対してもつ正誤・適否・美醜などの感覚によって、表現や意味、言葉の使い方を比べる評価活動が重要な意味を

持つと考える。生徒が場に応じた適切な言葉について考えたり、表現の微妙な違いを吟味したりすることによって、豊かな言語感覚が育成されていくであろう。

本研究における言語感覚とは、「表現の正誤・適否・美醜をとらえる能力」ととらえ、育成する力として前頁【表1】の三つを掲げ、研究を進めるものとする。

これまで述べてきたことを基に、本研究では、中学校国語科における豊かな言語感覚が育った生徒の姿を、「表現の正誤・適否・美醜に気付き、その効果を評価したり味わったりすることができる生徒」ととらえることとする。

ウ 説明的な文章の指導において言語感覚を育成する意義

本研究では、説明的な文章の指導において、豊かな言語感覚の育成をめざしていききたいと考える。説明的な文章を読むということは、言葉や文を基に情報の論理的な関係について、段階を踏みながら的確に理解することである。説明的な文章には、伝えようとする事実や考え方が、その場にふさわしい言葉や文で表わされ、構成の工夫など、筆者の論理にしたがって表現されている。

そこで、本研究では、説明的な文章の読解において、筆者の意図や思いの込められた表現などの中から、特に言語感覚をとらえる視点に適合した表現に着目し、それぞれについて把握することによって言語感覚の育成をめざしていききたい。そして、このことが説明的な文章の正確な読み取りにつながるものと考えられる。

(2) 相互評価を取り入れた表現活動を行うことについて

ア 言語感覚をとらえる視点の明確化

豊かな言語感覚を育成していくために、まず、言語感覚をとらえる視点を明確にする必要がある。言語感覚をとらえる視点として言語感覚にかかわる言語事項から、特に読解指導に適している

「語句、文、文章」

【表2】読解指導における言語感覚をとらえる視点

視点	語句	文	文章
表現の正誤	文法や意味の上から語句を正しく使っているか	基本文型を知り、正しく文を構成しているか	指示語、接続語を正しく使い、正しく構成しているか
表現の適否	(前後の)内容を考え語句をより適切に使っているか	文節相互の関係を考えてより適切に文を構成しているか	内容や目的に応じてより適切に文章を構成しているか
表現の美醜	表現の微妙な違いに気付いて、語句を効果的に使っているか	目的やねらいを考え、効果的に文を構成しているか	全体のつながりを考慮して効果的に文章を構成しているか

の3項目を取り上げた。それぞれの視点について一覧にしたものが【表2】である。これらの視点を基に教材分析を行い、表現の正誤・適否・美醜をとらえる力の育成に適した表現を抜き出し、授業の中に取り入れていかなければならないと考える。

イ 相互評価を取り入れた表現活動を行うことの意義

個々の生徒が表現をどうとらえたかについて、生徒同士で書く・話すなど表現し評価し合うことによって、理解を深めていく活動を「相互評価を取り入れた表現活動」ととらえる。書くこと、話すことなど、表現し相互評価する活動をとおして、生徒が自分と他者との表現のとらえ方の共通点や相違点に気付くこと、さらに意見や考えなどを出し合うことで自分の表現のとらえ方への理解を深めることが重要である。

(3) 相互評価を取り入れた表現活動の指導の展開

本研究では、学習段階を「表現の特徴に気付く」「気付きを他者と比較して自分のとらえを認識する」「筆者の意図を理解する」の三つの段階とする。

まず、「表現の特徴に気付く」段階では、言語感覚をとらえる視点を基に調べ読みをさせる。次に「気付きを他者と比較して自分のとらえを認識する」段階では、視点を基に表現の正誤・適否・美醜をとらえさせる。さらに、「筆者の意図を理解する」段階では、視点を基に読み取ったことをまとめさせる。以上の三段階によって言語感覚の育成が図られていくと考える。

ア 言語感覚をとらえる学習シートの活用

生徒自らの言語感覚に気付かせるために、言語感覚をとらえる視点を基に設定した課題に一人一人取り組ませる必要がある。その課題に基づき、読む・書く・発表するなどの表現活動に取り組ませ、自分なりの言語感覚のとらえをしっかりとらせることで、後の相互評価が活発なものになり、他者及び自分の言語感覚に気付いていくことにつながる。

言語感覚をとらえる視点を基にした課題は、学習シートとして提示する。まず、表現の正誤については誤りを指摘する問題を設定する。次に、表現の適否については、判断の幅を考慮しなければならないので、表現の違いを比較し選択する問を設定する。そして、表現の美醜については、個々の経験や感性に基づくので、表現の言い換え等の問題を設定する。

イ 言語感覚をとらえるための相互評価

言語感覚をとらえるための相互評価においては、個別に取り組む学習シートを活用し、読む、書く、話すなどの表現活動に取り組ませ、生徒自身の言語感覚について振り返らせることで、互いの言語感覚の優れたところや豊かさに気付かせるようにする。学習形態は、3～4人の小グループが適当だと考える。教師が生徒の相互評価を共感的に受容しながらも適切なアドバイスを与える場面を設定することにより、一層豊かな言語感覚の育成が図られるであろう。

(4) 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本構想図

これまで述べてきた中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本的な考えに基づいて構想図を次頁【図1】のように作成した。

2 手だてにかかわる実態調査及び調査結果の分析と考察

(1) 実態調査の目的と内容

手だての試案を作成するに当たって、生徒の国語の学習における実態を把握するために、次のような目的と内容で調査紙を作成し、7月22日に実態調査を行った。

ア 実態調査の目的

この調査の目的は、調査対象となる中学校3年生徒の国語科の授業における実態を把握し、国語の授業において相互評価を取り入れた表現活動を行う際に必要な資料を得ることである。

イ 実態調査の内容

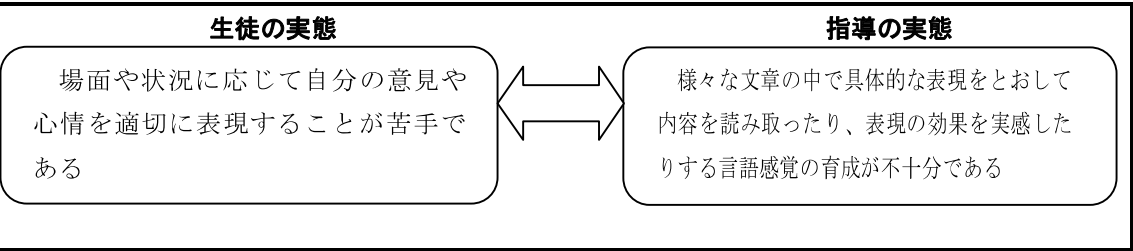
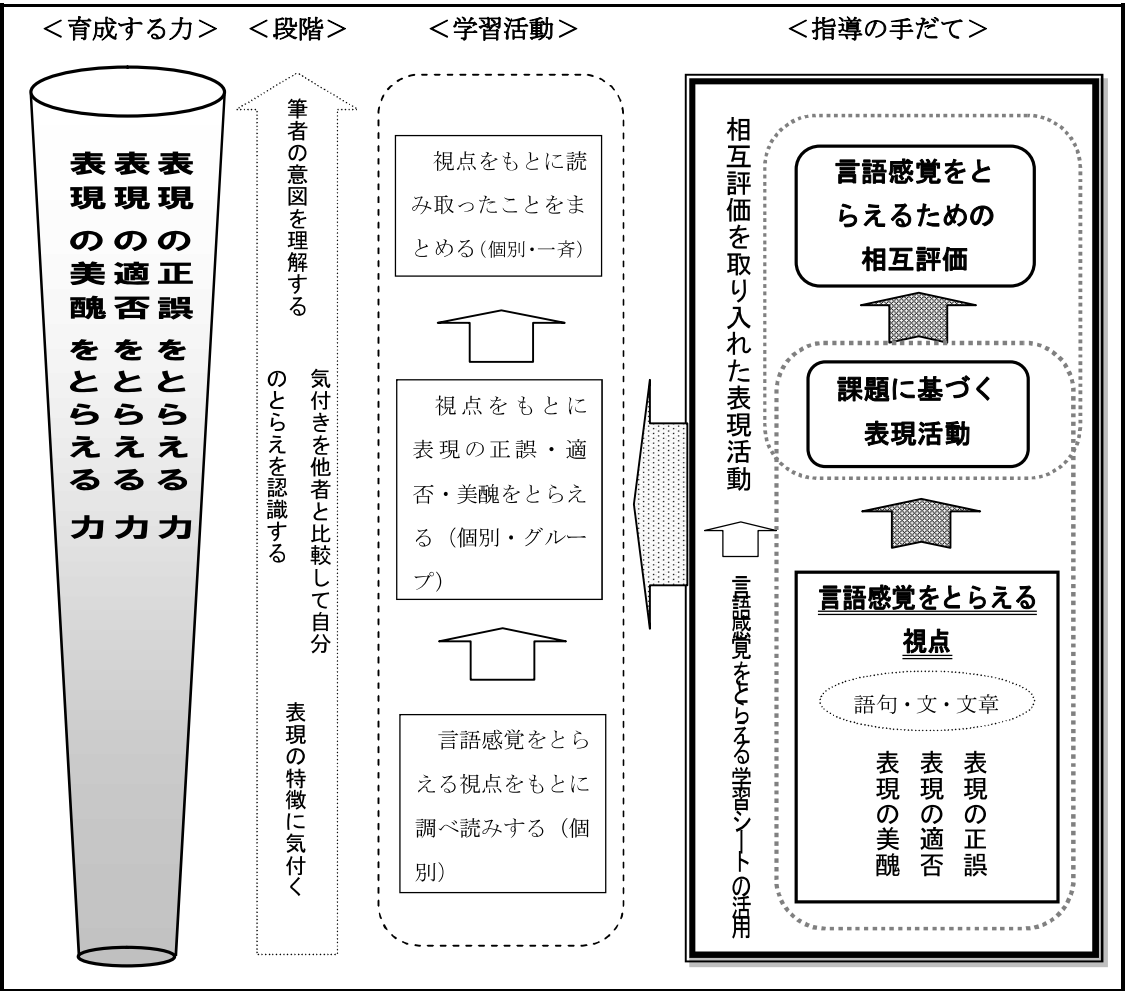
実態調査を行うに当たり、実態調査の内容を6頁【表3】のようにまとめ、調査用紙を作成した。調査用紙は、【補充資料1】を参照。

(2) 調査結果の分析と考察

ア 相互評価を取り入れた表現活動にかかわる実態

生徒の話合い活動に対する意識について、調査した結果を6頁【図2】【図3】7頁【図4】のようにまとめた。【図2】設問1①の回答を見ると、友達の発言に対して自分の意見や感想を「話したい」がA組は21.6%、B組は10.8%であった。「どちらかというと話したい」まで含

<豊かな言語感覚が育った生徒の姿>
 表現の正誤・適否・美醜に気づき、その効果を評価したり味わったりすることができる



【図1】 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本構想図

めるとA組は 62.2%、B組は 67.6%と半数以上の生徒が話し合うことに抵抗感を持っていないことが分かる。

設問1②では、設問1①で否定的な回答をした生徒を対象にして、その理由を調査した。その結果、話し合いたくない理由として、最も多かったのは、「考えがまとめられず、話すのが苦手」「恥ずかしい」「相手に遠慮してしまう」であった。

設問2①を見ると、ペアでの話し合い活動を1番に選んだ生徒の割合が、A組では 62.2%、B組でも 43.2%と最も多く、学級全体での話し合い活動を選んだ生徒の割合は、A組では 2.7%、B組では 16.2%と最も少ないことが分かる。このことから、生徒は話し合い活動において、集団編制が小さいほど自分の意見や感想を話しやすいと感じているものと考えられる。

設問2②を見ると、グループで話し合い活動を行うとき、3～4人のグループを選んだ生徒は、A組で 73.0%、B組が 51.4%と最も多い。B組で5～7人のグループを選んだ生徒が 43.9%であることから、班ごとの話し合い活動に慣れていることが考えられる。

(3) 実態調査から明らかになった問題点と課題

実態調査の結果から次のようなことが問題点として明らかになった。

ア 問題点

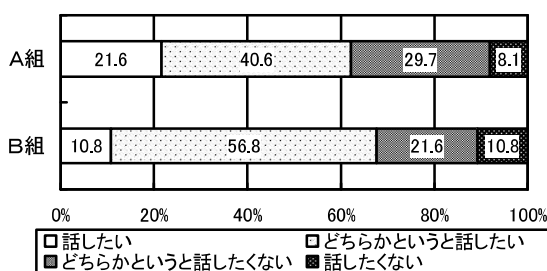
話し合い活動において、友達の発言に対して自分の意見や感想を「どちらかという話したくない」「話したくない」と答えている生徒がA組では 37.8%、B組でも 32.4%いる。特にA組の 8.1%、B組の 10.8%の生徒は強い抵抗感をもっている。

【表3】手だてに関する実態調査の観点と設問内容

設問のねらい	設問番号	設問内容	手だてへの生かし方
話し合い活動に対する意識を知る	1	① 国語の授業中の話し合い活動のとき、友達の発言に対して、自分の意見や感想を話したいと思うか。	話し合い活動についての意識を知り、話し合い活動への抵抗感に配慮して学習形態を工夫する。
		② 話したくない人は、その理由を書きなさい。	
	2	① 友達の発言に対して、自分の意見や感想を話しやすい形態はペア(二人組)、グループ、学級全体の中のどれか。	
		② 国語の授業中に、グループでの話し合い活動をするとしたら、何人が話しやすいか。	

設問1① 話し合い活動で、友達の発言に対して自分の意見や感想を話したいと思いますか？

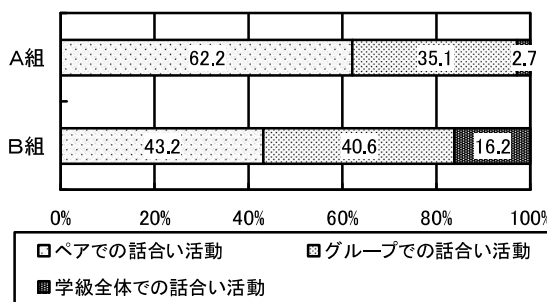
*A・B組ともN=37(単位:%)



【図2】話し合い活動に対する意識調査①

設問2① あなたが、友達の発言に対して、自分の意見や感想を話しやすいと思うのはどれですか？

*A・B組ともN=37(単位:%)



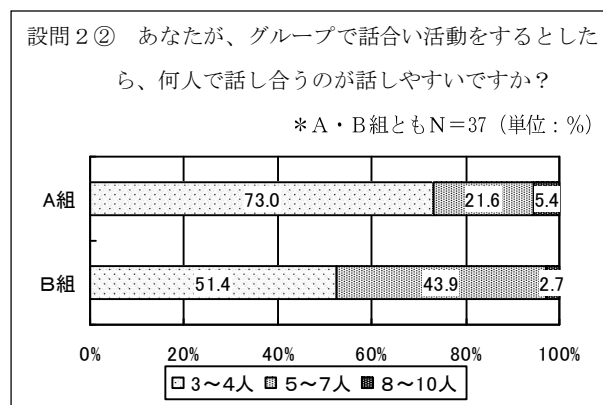
【図3】話し合い活動に対する意識調査②

イ 要因

上記問題点の要因として、「考えがうまくまとめられず、話すことが苦手」であることや「自分の考えに自信がない」などの認知面にかかわる理由が挙げられている。また、「恥ずかしい」などの情緒面にかかわる理由も見られる。

ウ 課題

- (ア) 自分の考えをまとめやすい学習シートにすること。
- (イ) 話し合うこと、自分の意見や考えを述べることの大切さを事前に指導すること。
- (ウ) 話し合いやすいグループ形態をとること。



【図 4】話し合い活動に対する意識調査結果③

3 相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案

(1) 手だての試案作成の観点

- ア 生徒が相互評価を取り入れた表現活動を行う際に自分の考えをまとめやすいような学習シートの工夫
- イ 言語感覚のとらえを相互評価する際にしっかりと自分のとらえを発表し他者のとらえと比較し合うことについての事前指導
- ウ 話し合いやすいグループ編制、自分の意見や考えを述べることに対する抵抗感の強い生徒への座席等の配慮

(2) 手だての試案作成

これまでに述べてきたことを基に、相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案を次頁【図 5】のように作成した。

(3) 検証計画及び調査計画

授業実践をとおして手だての試案の妥当性をみるため、【表 4】のような検証計画及び調査計画を作成した。事前と事後テストを行い、検証を進めることとする。また、活動段階ごとの学習シートへの記述内容を 9 頁【表 5】の分析基準を用いて分析・考察し、テスト結果と関連付けてまとめることとする。

【表 4】検証計画及び調査計画

	項目	内容	方法	処理・解釈
検証計画	中学校国語科における豊かな言語感覚の育成状況	言語感覚をとらえるための評価項目 ①表現の正誤をとらえる力 ②表現の適否をとらえる力	テスト法で事前事後に実施する	①②は、事前事後テストで解答を採点し、t検定により分析・考察する。③は、テスト解答の記述内容を【表 5】の分析基準により分析・考察する。
	活動段階ごとの育成状況	③表現の美醜をとらえる力	学習シートへの記述により検証する	①②③とも【表 5】の分析基準により分析・考察する。学習指導過程における生徒の活動を観察し、参考にする。
調査計画	単元の学習内容の習得状況	読む能力	テスト法で事後に実施する	学校で用いている市販テストにより、単元の学習内容の定着状況を分析・考察する。

段階	学 習 活 動	学習形態	相互評価を取り入れた表現活動及び指導上の留意点								
導 入	1 課題を把握する (1) 単元の学習のめあてをもつ ・表現の特徴を見つけるための視点例をもとにめあてをもつ (2) 単元の学習課題を把握する ・黙読、微音読	個別	<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>表現の特徴を見つけるための視点例</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>語句の使い方</td> <td>慣用句、類義語、擬態語、抽象的な語句(学術用語、難語句) 文末(助動詞、助詞) など</td> </tr> <tr> <td>文の成分の順序・位置</td> <td>主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係、並列の関係など</td> </tr> <tr> <td>文章の構成</td> <td>文章の展開、指示語・接続語の使い方</td> </tr> </tbody> </table> <p>○表現の特徴を見つけるための視点例を与える ○微音読した後、言語感覚にかかわる表現(表現の特徴として)を抜き出させる</p>		表現の特徴を見つけるための視点例	語句の使い方	慣用句、類義語、擬態語、抽象的な語句(学術用語、難語句) 文末(助動詞、助詞) など	文の成分の順序・位置	主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係、並列の関係など	文章の構成	文章の展開、指示語・接続語の使い方
				表現の特徴を見つけるための視点例							
語句の使い方	慣用句、類義語、擬態語、抽象的な語句(学術用語、難語句) 文末(助動詞、助詞) など										
文の成分の順序・位置	主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係、並列の関係など										
文章の構成	文章の展開、指示語・接続語の使い方										
展 開	2 課題を追究する 相互評価を取り入れた表現活動を行う	個別 ペア及び 小グループ	<p>○上記の視点例をもとに調べ読みさせる</p> <p>○次の観点をもとに相互評価を取り入れた表現活動を行う</p>								
<div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px auto; width: 80%;"> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">指導のポイント</div> <div style="font-size: 2em;">➡</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">①学習シートを活用し、表現活動を行う</div> </div> <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>具体的なポイント</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表現の正誤</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○接続語の使い方・格助詞の使い方、主語・述語の関係、並列の関係、文末の不統一などから表現の正誤に気付く ○音読をとおして表現の正誤の気付く </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表現の適否</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○文中の表現の言い換えから表現の適否に気付く ○キーワード等の選択から表現の適否に気付く </td> </tr> <tr> <td style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">表現の美醜</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ○レトリック及び筆者の意図の込められた表現から表現の美醜に気付く ○文章構成から表現の美醜に気付く </td> </tr> </tbody> </table> <div style="margin-top: 10px;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ②言語感覚のとらえを相互評価する <ul style="list-style-type: none"> ○気付きをグループ内で比較して自分のとらえを認識し、広げる *相互評価に適したグループ編成 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ③表現の正誤・適否・美醜をとらえながら筆者の意図に迫る </div> </div> </div> <p style="font-size: 0.8em; margin-top: 10px;">*は、実態調査を受けて手だての試案に生かす留意点</p>					具体的なポイント	表現の正誤	<ul style="list-style-type: none"> ○接続語の使い方・格助詞の使い方、主語・述語の関係、並列の関係、文末の不統一などから表現の正誤に気付く ○音読をとおして表現の正誤の気付く 	表現の適否	<ul style="list-style-type: none"> ○文中の表現の言い換えから表現の適否に気付く ○キーワード等の選択から表現の適否に気付く 	表現の美醜	<ul style="list-style-type: none"> ○レトリック及び筆者の意図の込められた表現から表現の美醜に気付く ○文章構成から表現の美醜に気付く
	具体的なポイント										
表現の正誤	<ul style="list-style-type: none"> ○接続語の使い方・格助詞の使い方、主語・述語の関係、並列の関係、文末の不統一などから表現の正誤に気付く ○音読をとおして表現の正誤の気付く 										
表現の適否	<ul style="list-style-type: none"> ○文中の表現の言い換えから表現の適否に気付く ○キーワード等の選択から表現の適否に気付く 										
表現の美醜	<ul style="list-style-type: none"> ○レトリック及び筆者の意図の込められた表現から表現の美醜に気付く ○文章構成から表現の美醜に気付く 										
終 末	3 学習のまとめをする 学習のまとめをし、各自の言語感覚の高まりを確認する	個別 一斉 個別	<p>○学習シートに取り組む中で、読解のまとめをする</p> <p>○まとめた内容を学級全体で確認する</p> <p>○感想を書き、個々の言語感覚の高まりを確認する (表現の特徴⇒表現の効果⇒筆者の意図)</p>								

【図5】相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案

【表5】学習シート及び検証問題の分析基準

		A	B	C
学習シート用	表現の正誤をとらえる力	表現の誤りを指摘し、根拠をもって正しい表現に直している	表現の誤りを指摘している	無答、表現の誤りを指摘できない
	表現の適切さをとらえる力	表現の意図を理解し、より適切な表現を選択している	適切な表現を選択している	無答、不適当な答えである
学習シート及び検証問題用	表現の美醜をとらえる力	<p>語句…レトリックや抽象的な概念等を表す語の効果を理解し、表現の意図に迫ろうとしている</p> <p>文…文構成の効果を理解し、表現の意図に迫ろうとしている</p> <p>文章…文章構成の効果を理解し、表現の意図に迫ろうとしている</p>	<p>語句…レトリックや抽象的な概念等、効果的に使われている語を指摘している</p> <p>文…効果的に使われている文構成（文の成分の順序や照応）を指摘している</p> <p>文章…効果的に使われている文章構成を指摘している</p>	無答、不適当な答えである
		*レトリックは文構成に関わるものもあるが、便宜上「語句」に入れる		
留意点	<p>「表現の美醜をとらえる力」については、「表現の適否をとらえる力」の上位に位置するものが多い。文・文章の構成においては「表現の正誤をとらえる力」及び「表現の適否をとらえる力」の上位と考えられる。特に、表現の美的価値に関わるものについて、その傾向が強いので考慮する必要がある。</p>			

4 授業実践及び実践結果の分析と考察

(1) 単元「マスメディアを通した現実世界」の指導計画及び学習指導案

ア 単元「マスメディアを通した現実世界」の指導計画

単元「マスメディアを通した現実世界」の指導計画を作成した。【表6】は、手だての試案に基づく、指導計画である。

【表6】単元「マスメディアを通した現実世界」の指導計画（5時間扱い）

階	時	学習指導目標	学 習 活 動	相互評価を取り入れた表現活動及び指導上の留意点
課題把握	1	◎学習のねらいを理解し、学習目標をもつことができる	○学習のねらいを理解し、学習目標をもつ ・表現には、各表現者の意図が表われること、読者に伝えようと様々な工夫していることを理解する	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">学習目標をもたせる</div> ・表現の特徴に即した読み取りをしていくことを確認する

課題把握	1		<ul style="list-style-type: none"> ・「マスメディアを通じた現実世界」の中で、表現や文章の展開の特徴をとおして筆者の考えに迫ることを確認する ○「マスメディアを通じた現実世界」という題名から、ただの「現実世界」とどう違うのかという視点を持って、全文を読みとおす。(範読→微音読) 	<p>表現の視点例を確認させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「マスメディアを通じた」という言い方に着目して話し合わせる ・難語句を拾い出させ、文章に即した意味を調べさせる
課題追究	2	◎表現の特徴から筆者の意図を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ○第一の部分（形式段落1～9）を読み、話題と筆者の考えを読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・例文の正誤について考える ・形式段落1～9を音読する ○「地球村」という表現をとおして、事件が身近になったことを読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・「地球村」に換わる表現を考え、発表し合うことによって、表現の効果について考える ○それ以外の筆者の意図の込められた表現をとおして、第一の部分の要点を読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意図が込められていると考えられる表現を抜き出し、グループごとに相互評価する ・相互評価し合った表現を学級全体で出し合い、それをもとに第一の部分の要点をまとめる 	<p>例文等によって正誤をとらえる力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正誤をとらえるための例文に取り組ませる ・正確な音読を心がけさせる <p>「地球村」という表現をとおして美醜をとらえる力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「地球村」に込められた筆者の意図に気づかせる <p>筆者の意図の込められた表現をとおして美醜をとらえる力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートに記入させ、それをもとに相互評価させる ・要点をまとめる際には字数制限をする
	3	◎表現の特徴から筆者の意図を理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> ○第二の部分（形式段落10～20）を読み、内容と筆者の考えを読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・例文の正誤について考える ・形式段落10～20を音読する ○「現実の鏡」という表現をとおして、事件が身近になったことを読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・「現実の鏡」に換わる表現を考え、発表し合うことによって、表現の効果について考える ○それ以外の筆者の意図の込められた表現をとおして、第二の部分の要点を読み取る <ul style="list-style-type: none"> ・筆者の意図が込められていると考えられる表現を抜き出し、グループごとに相互評価する ・相互評価し合った表現を学級全体で出し合い、それをもとに第二の部分の要点をまとめる 	<p>例文等によって正誤をとらえる力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・正誤の例文の問題に取り組ませる ・正確な音読を心がけさせる <p>「現実の鏡」という表現をとおして美醜をとらえる力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「現実の鏡」に込められた筆者の意図に気づかせる <p>筆者の意図の込められた表現をとおして美醜をとらえる力を育成する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学習シートに記入させ、それをもとに相互評価させる

課題追究	4	◎表現の特徴から筆者の意図を理解することができる	○第三の部分（形式段落 21～23）を読み、内容と筆者の考えを読み取る ・例文の正誤について考える ・形式段落 21～23 を音読する ○筆者の意図の込められた表現をとおして、第三の部分の要点を読み取る ・筆者の意図の込められていると考えられる表現を抜き出し、グループごとに相互評価する ・相互評価し合った表現を学級全体で出し合い、それをもとに第三の部分の要点をまとめる	・要点をまとめる際には字数制限をする 例文等によって正誤をとらえる力を育成する ・正誤の例文の問題に取り組ませる ・正確な音読を心がけさせる 筆者の意図の込められた表現をとおして美醜をとらえる力を育成する ・学習シートに記入させ、それをもとに相互評価させる ・要点をまとめる際には字数制限をする
	5	◎キーワードをもとに要旨をまとめることができる	○全体の構成を振り返り、キーワードをもとに要旨をまとめる ・全体を黙読し、キーワードを三つ選ぶ ・それぞれ選んだキーワードについて相互評価する ・相互評価し合ったキーワードを学級全体で出し合い、それをもとに要旨をまとめる ○学習シートに感想を書く ・感想を発表し合って、互いの言語感覚に対する意識の高まりを確認し合う	キーワードの選択をとおして適否をとらえる力を育成する ・要旨をまとめる際には字数制限をする ・具体的に表現の特徴にふれ、筆者の意図について自分の感想を書かせる

「注」 は学習シートの活用を示す。

イ 単元「マスメディアを通した現実世界」の学習指導案

単元「マスメディアを通した現実世界」の学習指導案を作成した。本資料では省略し、巻末の補充資料【補充資料3-①～⑦】に掲載する。

(2) 相互評価を取り入れた表現活動を行う授業実践の概要

ア 授業実践の計画

- (ア) 対象 花巻市立湯本中学校第3学年2学級（男44名 女32名 計76名）
- (イ) 授業実践期間 平成16年8月30日から9月15日（12日間）
- (ウ) 指導計画 単元名 情報社会をみつめる 「マスメディアを通した現実世界」 …5時間
 - ・「課題把握」の段階…1時間
 - ・「課題追究」の段階…3時間
 - ・「学習のまとめ」の段階…1時間

イ 授業実践の概要

手だての試案に基づき作成した学習指導案にしたがい授業実践を行った。12、13頁【資料1】14、15頁【資料2】は「相互評価を取り入れた表現活動を行う授業実践の概要と分析」①②である。

【資料1】相互評価を取り入れた表現活動を行う授業実践の概要と分析①

段階	課題の追究 (2・3・4/5時)	学習シート	生徒の発言・つぶやき
学習の流れ	導入 本時の目標 ・表現の特徴について理解し、文章の展開に即して筆者の考えをとらえることができる	1 学習内容の確認 ① 前時の学習想起をする ② 本時の学習内容を確認する 2 学習課題の把握 表現の特徴から筆者の考えを読み取ろう	展開 3 表現の正誤をとらえる力の育成 ① 例文の正誤について理解する ② 正確な音読をする
学習活動	1 学習内容の確認 前の時間には、「地球情報町」や「情報のはりめぐらされた星」といったすばらしい表現がありました。また、相互評価で、みんなの表現が豊かに広がっていったことも良かったです。	2 学習課題の把握 3 表現の正誤をとらえる力の育成	4 表現の美醜をとらえる力の育成 3 班の相互評価カード 相互評価カード「マスタディアを通じた現象世界」 NO. 1 3年A組 発表・名前 () メンバー 役割② 役割③ 役割④ B A 少し単純な表現で、増補をもう少し秀とるべき A B 最近の世界はよく考えられていい。 C+D C よす、書くこと * 評価について A~とても良い B~大體良い C~もう少し
各力の育成状況	表現の正誤をとらえる力の育成1「正誤の例文」 (単位:%) 判定 A B C シート② 15.1 57.5 27.4 ③ 50.0 41.7 8.3 ④ 55.6 38.9 5.5	表現の正誤をとらえる力の育成2「正確な音読」 (単位:%) 判定 A B C D シート② 12.9 54.8 30.1 2.8 ③ 12.5 56.9 23.7 7.9 ④ 38.9 52.8 6.9 4.4	表現の美醜をとらえる力1「筆者独自の表現の言い換え」 記述例 相互評価前 シート 世界、地球、つながり、身近さ ② シート 真実、コピー、カメラ、分身 ③
各力の育成と授業のまとめ	☆各力の育成について 第2時 活動の様子 正誤 正誤の例文の正答率が低かった。主語と述語のねじれが文脈中で十分に理解されていない。正確な音読の取り組みに照れがあり、積極的ではなかった。 適否 意図的な取り組みはしていないが、言い換えの際に根拠を求めながら適切な表現を選択しようとしていた。 美醜 言い換える「地球村」が難解だったのか、個人では未記入の生徒が多かったが、相互評価では記入者が増えた。効果的な表現の指摘、選択理由も未記入者が多い。 ☆まとめ…内容が多かったせいか、時間配分が難しかった。なるべく、相互評価にかかる時間を多くとるよう配慮した。相互評価はグループ格差が大きく感じる。3Aは仲良しグループを組み合わせしており、気軽に話し合える雰囲気が出結果につながっているようだ。	☆各力の育成について 第3時 活動の様子 正誤 正誤の例文の正答率が上がった。誤りの指摘だけでなく、根拠を示せるようになってきた。正誤の例文の指導が正確な音読の取り組みに好影響を与えている。 適否 言い換えの際に、それぞれの言葉を文脈に当てはめるなど根拠を求めながら適切な表現を選択していた。 美醜 前回の取り組みをとおして、自分が何をすべきか理解して取り組んでいた。単独での記入者が増えた。相互評価で優秀な生徒に引張られる傾向もある。 ☆まとめ…3時間を同じ流れにした効果が現れてきた。相互評価にかかる時間が短くなってきた。また、何をすべきか分かって取り組む生徒が増えた。効果的な表現の指摘理由を書く生徒が増えた。3Bのグループ学習の進行がスムーズではない。	

4 表現の美醜をとらえる力の育成1
筆者独自の表現の言い換えをする

5 表現の美醜をとらえる力の育成2
効果的に使われている表現について考える (キーワード)

6 表現の正誤をとらえる力の育成
キーワードをもとに要点をまとめる

筆者独自の表現 (言葉) の言い換え (シート②~④)

② 「地球村」の言い換え
③ 「現実の鏡」の言い換え

相互評価の様子

C 地球村って、地球を村にたとえているんだよね。だから、「地球町」にしたよ。

C いいけど、それじゃ、単純じゃない。マスメディアによって世界が身近になったんだから「身近な世界」にしたよ。

C 僕も「地球村」だったからなあ。情報で身近になったんだから「身近な情報社会」なんてどうかな？

C いいね、じゃあ、僕は「地球情報町」にしようかな。

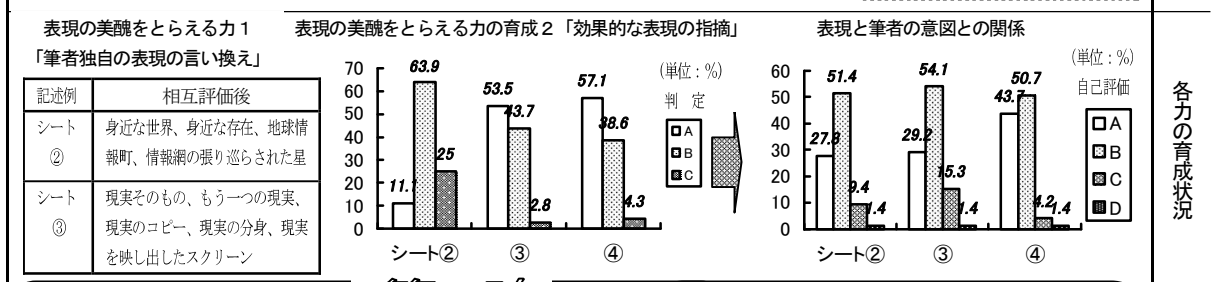
5 表現の美醜をとらえる力の育成2

効果的に使われている表現について考える (キーワード)

6 要点のまとめ

要点のまとめ (シート②~④)

② 前半部の要点
③ 後半部の要点
④ 結論部の要点
⑤ 全体の要旨



☆各力の育成について

各力	活動の様子
正誤	正誤の例文では三事項であったが、正答率が上がっている。一つ一つの表現に注意しようとする姿勢が出てきた。正確な音読への取り組みも積極的であり、歓声があがった。
適否	要点まとめで、キーワードをどうつなげば適切かななどを検討する姿勢が出てきた。
美醜	効果的な表現の指摘理由を書くことのできた生徒が多かった。また、その理由の中に筆者の意図にふれる表現も見られた。(記述内容の変化→量的・質的)


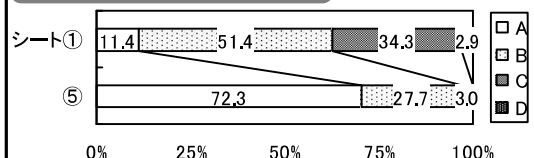
☆まとめ…生徒たちの表情に意欲が感じられるようになり、授業のテンポも良くなってきた。特に、効果的な表現の指摘の相互評価を行う時間が十分に取れたことによって、筆者の意図に言及する発言も見られるようになってきた。表現と筆者の意図との関係について、93%の生徒が理解できたと自己評価した。

第2~4時の授業のまとめ

3時間を同じ流れにしたことによって生徒の取り組み姿勢、相互評価の進行状況が良くなった。特に「効果的な表現の指摘」は3時間連続で行ったので、筆者の意図にまで考えが及ぶようになってきた。

相互評価の学級格差、グループ格差が生じた。当初取り組み状況の良くなかった3Bはリーダー指導を行って対処したことによって改善が図られた。逆に当初良かった3Aでは、伸び悩みが見られた。また、優秀な生徒の発言に左右される傾向があった。

【資料2】相互評価を取り入れた表現活動を行う授業実践の概要と分析②

段階	課題の追究 (5/5時)	学習シート	生徒の発言・つづやき														
学習の流れ	導入	展開															
	<p>本時の目標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・キーワードを基に要旨をまとめ、筆者の考えをとらえることができる。 	<p>1 学習内容の確認</p> <ul style="list-style-type: none"> ④ 前時の学習想起をする ⑤ 本時の学習内容を確認する <p>2 学習課題の把握</p> <p>キーワードを基に要旨をまとめよう</p>	<p>3 表現の適否をとらえる力の育成</p> <p>全文からキーワードを選ぶ</p> <p>全文を黙読してキーワードを三つ選んでください。10分後グループ毎に相互評価しましょう。</p>														
学習活動	<p>1 学習内容の確認</p> <p>Y君の要約文を紹介します。「マスメディアの情報は現実の鏡ではないので、人との語り合いが大事だ。」キーワードは「現実の鏡」「語り合い」で、「ので」を使ってスムーズにつないでいます。</p> <p>2 学習課題の把握</p> <p>3 表現の適否をとらえる力の育成</p> <p>相互評価活動</p>  <p>では、発表してください。</p>	<p>T君のキーワード選択</p> <table border="1"> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>キーワード</td> </tr> <tr> <td>共同作業</td> <td>現実の鏡</td> <td>地球村</td> <td>キーワード</td> </tr> <tr> <td>周りの人々との意見交換の大切さを伝えるため。</td> <td>映し出された映像のままの現実の世界を伝えるため。</td> <td>マスメディアからの情報伝達の速さを分りやすく伝えるため。</td> <td>選んだ理由</td> </tr> </table> <p>1 キーワードを三つ選ぶ。</p>	3	2	1	キーワード	共同作業	現実の鏡	地球村	キーワード	周りの人々との意見交換の大切さを伝えるため。	映し出された映像のままの現実の世界を伝えるため。	マスメディアからの情報伝達の速さを分りやすく伝えるため。	選んだ理由	<p>相互評価の様子</p> <p>C それでは、発表してもらいます。</p> <p>C 私は、「地球村」を選びました。それはマスメディアの役割の大切さを表現できるからです。</p> <p>C 僕も同じです。マスメディアからの情報伝達の速さを分かりやすく伝えられる。</p> <p>C 僕も同じだけど、他はどうですか？</p> <p>C 僕は、結論部の筆者の提案を表現するためにも「人との語り合い」が必要だと思う。</p> <p>C 私も同じ理由だけど、「現実の像を共有する人の輪」を選んだよ。でも、そっちの方がいいかな…。</p>		
3	2	1	キーワード														
共同作業	現実の鏡	地球村	キーワード														
周りの人々との意見交換の大切さを伝えるため。	映し出された映像のままの現実の世界を伝えるため。	マスメディアからの情報伝達の速さを分りやすく伝えるため。	選んだ理由														
各力の育成と授業のまとめ	<p>第5時用「学習シート⑤」表</p> <table border="1"> <tr> <td>3</td> <td>2</td> <td>1</td> <td>キーワード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>キーワード</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td>選んだ理由</td> </tr> </table> <p>2 要旨を八十字以内でまとめよう。</p> <p>◆キーワードをもとに要旨をまとめよう。</p> <p>◆キーワードを三つ選ぶ。</p> <p>三年 組 番号 名前</p> <p>三年国語学習シート「マスメディアを通じた現実世界」⑤</p>			3	2	1	キーワード				キーワード				選んだ理由		
	3	2	1	キーワード													
			キーワード														
			選んだ理由														
<p>表現の適否をとらえる力の育成</p> <p>キーワードの選択の際には、その理由を説明するようにさせた。相互評価をとおして変更したものは赤ペンで加筆するように指示をした。</p> <p>相互評価のリーダー指導を行うことによって、どのグループも比較的スムーズに進行することができた。3Aの相互評価は、全体に深まりがなくなってきた。3Bは、相互評価に活気が見られ、さらに深め合う意識が高まってきた。</p>			<p>要旨のまとめ</p> <p>個々の生徒が要旨をイメージしてキーワードを選択しており、書くのに要した時間は5分程度であった。また、キーワードをつなぐ構成についてもスムーズになった。</p>														
<p>表現と筆者の意図との関係</p> <p>理解度自己評価集計 (N=67)</p>  <table border="1"> <tr> <th>シート</th> <th>A</th> <th>B</th> <th>C</th> <th>D</th> </tr> <tr> <td>①</td> <td>11.4</td> <td>51.4</td> <td>34.3</td> <td>2.9</td> </tr> <tr> <td>⑤</td> <td>72.3</td> <td>27.7</td> <td>3.0</td> <td>3.0</td> </tr> </table>			シート	A	B	C	D	①	11.4	51.4	34.3	2.9	⑤	72.3	27.7	3.0	3.0
シート	A	B	C	D													
①	11.4	51.4	34.3	2.9													
⑤	72.3	27.7	3.0	3.0													

終末

4 表現の美醜をとらえる力の育成1

キーワードを基に要旨をまとめて発表する



Kさんの要旨と発表

リ	い	突	そ	ま	と	世	マ
は	。	に	れ	し	を	界	ス
重	だ	伝	は	て	伝	で	メ
要	か	え	。	い	え	起	デ
な	ら	る	現	る	る	こ	イ
の	こ	わ	突	。	重	っ	イ
で	そ	け	世	し	要	て	は
あ	語	で	界	か	な	り	
る	ソ	は	を	し	役	る	今
。	合	な	忠	割	こ		

4 要旨のまとめ

5 感想

学習シートに感想をまとめる

具体的な表現にふれて、筆者の意図について感想をまとめましょう。



5 感想

私は、キーワードとして「マスメディアの情報」「現実の鏡」「人との語り合い」を選びました。そして、「マスメディアは…人との語り合いをすることが大切だ。」とまとめました。
語り合いでキーワードは替わらなかったけれど、みんなと同じものを選んでいたので自信が出ました。

6 三つの視点のまとめ

学習のまとめとして、表現の特徴の三つの視点を確認する

表現の特徴には、
① 正しい表現
② ふさわしい表現
③ 効果的な表現
の三つがあります。
これらを、これからのより良い読み取りや表現に生かしていきましょう。

私は、この「マスメディア」を通して「現実の鏡」について、語り合いたい。もし、何かの情報を得たという表現が、とても良いと思えました。そして、なかの情報のみならず、その背景も、他の人とその「今」をどうから得た情報について語り合いたい。新たな考えを発見したりするのは、とても良いと思います。そして、その語り合いを「共同作業」と表現しているところが、私は気に入りました。これから、文章を読み、または、表現の特徴を意識して読みたいと思います。

学習の流れ

学習活動

第5時用「学習シート⑤」裏

3	2	1	
よりよい表現をめざすための三つのポイントについて理解できたか。	表現の特徴を意識して文章を讀むようになったか。	表現の意図(考え)が表現の工夫や特徴となって表われることを理解できたか。	今日の学習について自己評価しよう。
			評価項目
			評価

- A とても良い
- B 良い
- C あまり良くない
- D 悪い

4 マスメディアを通じた現実世界について感想を書こう。
*具体的な表現を取り上げ、筆者の考えについて書くこと

言語感覚の高まりの確認

一人一人が、しっかりと記述しており、表現に対する意識が高まってきたことが確認できた。

☆各力の育成について

各力	活動の様子
正誤	意図的に育成に取り組んでいないが、要点まとめ、感想等、自分の表現の正しさをチェックする上で育成が図られたと考える。
適否	キーワード選択をとおして育成を図った。要旨をまとめるために必要なキーワードを選択し、理由も説明できるようになった。
美醜	感想の記述の中で、筆者の意図に迫るだけでなく、96.9%の生徒が表現と意図との関係について理解できたとしている。

☆まとめ…全体的に短時間でスムーズに相互評価が行えるようになった。相互評価の要旨まとめも、個々の生徒が何をすべきか理解して取り組んでいた。
感想や発問がやや難しかったが、短時間でよく記述していた。内容も言語感覚の高まりを十分に感じさせるものであった。(表現、書くことへの発展性を感じた)

各力の育成と授業のまとめ

(3) 実践結果の分析と考察

ア 豊かな言語感覚の育成状況

(ア) 「表現の正誤をとらえる力」の育成状況

「表現の正誤をとらえる力」について、t検定を行った結果を【表7】に示した。検定の結果、有意差が認められた。

【表7】表現の正誤をとらえる力の育成状況

事前テストでは、主語・述語のねじれ(31.3%)、並列関係の乱れ(37.1%)、文末の不統一(42.3%)の正答率が低かった。これらは全て既習事項であることから、知識はあるが、文脈の中で表現の正誤をとらえることの困難な生徒が多いことが推察できる。事後テストでは、全問と

3年2学級		N=69					
検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
表現の正誤をとらえる力	10.5	3.97	14.4	4.02	0.78	12.13	*

「注」1 「表現の正誤をとらえる力」は、主題テストの設問一について正答数10×2点の配当であり、20点満点である
 2 事前テストは8月31日に実施、事後テストは9月15日に実施した
 3 t検定(平均の差の検定)に用いた公式は次に示すとおりである

$$t = \frac{\bar{X}_2 - \bar{X}_1}{\sqrt{\frac{S_1^2 + S_2^2 - 2rS_1S_2}{n-1}}}$$

なお、 \bar{X}_1 と \bar{X}_2 は、事前と事後テストの平均点、 S_1 と S_2 は事前と事後テストの標準偏差、 r は相関係数、 n は人数を表す
 4 有意差の欄の*は、t検定において有意水準5%で有意差があることを示す

も点数が伸びている。特に、言葉の重複(44.0→47.1%)、文末の不統一(42.3→45.4%)、副詞の使い方の誤り(66.2→69.2%)などにおいて、伸びが確認できた。これは、授業の中での「表現の正誤をとらえる例文」の取り組みをとおして、一つ一つの表現を文脈の中で正確にとらえられるようになってきたものと考えられる。このことは、12、13頁の【資料1】「表現の正誤をとらえる力1(正誤の例文)」のグラフからも推察される。授業が進むごとにCと判断される生徒が少なくなってきており、取り組みをとおして文脈の中で一つ一つの表現の正誤に注意する生徒が増えてきていることが分かる。また、「正確な音読」の相互評価の取り組みをとおして、正しい表現を意識する姿勢が定着してきた。

これらのことから、表現の正誤をとらえる力はおおむね育成されたと考える。

(イ) 「表現の適否をとらえる力」の育成状況

「表現の適否をとらえる力」についてt検定を行った結果を【表8】に示した。検定の結果、有意差が認められた。

【表8】表現の適否をとらえる力の育成状況

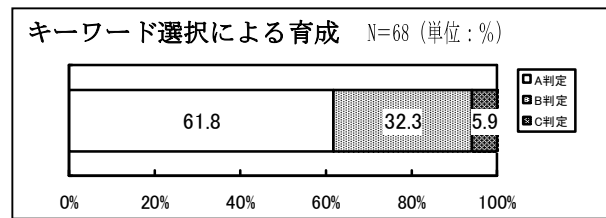
「表現の適否をとらえる力」について

3年2学級		N=69					
検証内容	事前テスト		事後テスト		相関係数	t値	有意差
	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差			
表現の適否をとらえる力	21.5	3.26	23.5	2.85	0.50	5.36	*

「注」1 「表現の適否をとらえる力」は、主題テストの設問二について正答数10×(0~3)点の配当であり、30点満点である
 2 事前テストは8月31日に実施、事後テストは9月14日に実施した
 * 以下は、【表7】に同じ

て、授業における学習シートの記述内容を検証計画の分析基準に従って判断・分析した結果を次頁【図5】に示した。これを見ると94.1%の生徒が適切なキーワードの選択をしている。Aと判断される61.8%の生徒は、選択理由についても説明できており、その内容が適切であることから、文脈の中でキーワードの重要性・必要性を認識し、筆者の意図に迫ろうとしていると考えられる。さらに、相互評価を通して、Bと判断される32.3%の生徒も選択理由を明らかにすることができるようになった。

また、「筆者独自の表現の言い換え」の際に、それぞれの言葉を文脈に当てはめてみるなど、根拠を求めながら適切な表現を選択したこと、「要点まとめ」において、キーワードをどうつなげば、適切な文章になるかを考えたことなども、表現の適否をとらえる力を育成する上で有効であったと推察される。



【図5】学習シートの記述の判断結果

これらのことから、表現の適否をとらえる力はおおむね育成されたと考える。ただし、今回の授業実践において表現の適否をとらえる力を意図的に育成する場面の少なかったことが課題である。指導過程及び手だての工夫・改善を図る必要があると考える。

(ウ) 「表現の美醜をとらえる力」の育成状況

表現の美醜をとらえる力の育成状況についての分析結果を【表9】に示した。この結果から69名のうち46名（【表9】のゴシック数字の合計）がプラスの変化をしていることが分かる。事前には判定Cの生徒が23名いたが、事後には14名の生徒がA及びBへ変化しており、事前に判定Bだった生徒32名が事後にはAに変化している。これは、「効果的な表現の指摘」とおして、表現技法だけではなく文章構成等まで意識する姿勢が育ってきたこと、「筆者独自の表現の言い換え」等を相互評価し合うことで、表現の特徴について、より幅広く細部にまで目を向ける姿勢が育ってきたものと推察される。なお、事前事後ともCで、変化のなかった生徒9名については、全く記述できない生徒であった。

【表9】表現の美醜をとらえる力の育成状況

3年生		事後			
N=69 (単位:人)		A	B	C	計
事前	A	10	0	0	10
	B	32	3	1	36
	C	9	5	9	23
	計	51	8	10	69

「注」1 Aは「十分育っている」、Bは「概ね育っている」、Cは「育っているとはいえない」の意味を示す

2 質問紙への記述内容を検証計画の分析基準を用いて判定した

12、13頁の【資料1】「表現の美醜をとらえる力2（効果的な表現の指摘）」のグラフは「表現の美醜をとらえる力」について、授業における学習シートの記述内容を検証計画の分析基準に従って判断・分析した結果をまとめたものである。これを見ると、シート②でAと判断された生徒は11.1%だったが、シート③では53.5%、さらに、シート④では57.1%に伸びている。また、相互評価後の指摘理由の記述の中に筆者の意図に言及するものが増えている。このことから、相互評価をとおして、文中の効果的な表現を指摘することができるようになってきたと考えられる。

なお、同じグラフを見ると、シート③から④への変化には、相互評価の活動状況の影響が現れていることが推察される。

これらのことから、表現の美醜をとらえる力は高まってきているが、相互評価を行う際のグループ編制及びその指導に十分考慮する必要があると考えられる。

以上のことから、育成したい三つの力はおおむね育成されていると考える。

イ 抽出生徒の活動段階ごとの育成状況

抽出生徒の様子と考察を次頁【図6】に示した。ここからは、表現の正誤をとらえる力、表現の適否をとらえる力、表現の美醜をとらえる力について、活動段階ごとの育成状況が見て取れる。本資料では、手だてとのかかわりで特徴的な伸びを示した生徒を抽出した。本研究の手だてである「相

抽出生徒の様子と考察を次頁【図6】に示した。ここからは、表現の正誤をとらえる力、表現の適否をとらえる力、表現の美醜をとらえる力について、活動段階ごとの育成状況が見て取れる。本資料では、手だてとのかかわりで特徴的な伸びを示した生徒を抽出した。本研究の手だてである「相

互評価を取り入れた表現活動」に意欲的に取り組んだ生徒の行動及び学習シートへの記述についての分析と考察を行ったところ、表現の正誤をとらえる力と表現の美醜をとらえる力に伸びが見られた。また、表現の意図に対する理解もCからAに伸びている。抽出生徒の育成に「相互評価を取り入れた表現活動」が有効に働いたものと考えられる。

実態調査の結果		事前・事後テストの結果（設問内容は省略）			力の育成	
<ul style="list-style-type: none"> 恥ずかしいという気持ちがあるが、学習のためには話し合うことが大切だと考えている。 ペア学習やグループ学習には抵抗感をもっていない。 			事前	事後	正誤○	
		表現の正誤をとらえる力	12点/20点	16点	適否▲	
		表現の適否をとらえる力	13点/30点	24点	美醜■	
		表現の美醜をとらえる力	C	A	段階	
時	言語感覚を育成する活動	態度、ノート記述	自己評価及び相互評価		C B A	
学習課題を把握する段階	第1時	1 題名から筆者の意図に迫る活動（美醜） 2 全文の音読練習（正誤） 3 意図に関すると思われる難語句を調べ活動（美醜）	◎マスメディアでしか通せない現実の世界 ◎意欲的な取り組みである。読めない漢字について聞いてきた。 ◎無記述	◎題名や難語句から筆者の意図について、考えることができたか→C		■
	第2時	1 正誤をとらえる例文 2 正確な音読（正誤） 3 「地球村」の言い換え（美醜） 4 効果的な表現の指摘（美醜） 5 要点まとめ マスメディアの立場や役割、また、情報の広まり方、受け手の考えが主な内容	◎誤りを指摘できず→C ◎真剣な取り組みであるが、はっきり聞き取れない ◎世界の中心 →C ◎相互評価が十分でない ◎表現は指摘できたが意味・意図は無記述 →B	◎B←→◎B ◎「地球村」と表現した筆者の意図を理解できたか→B ◎表現者の意図が表現の工夫・特徴となって表れることが理解できたか→B		○
	第3時	1 正誤をとらえる例文 2 正確な音読（正誤） 3 「現実の鏡」の言い換え（美醜） 4 効果的な表現の指摘（美醜） 5 要点まとめ マスメディアの情報には、加工された現実があり、私たちがそれを忠実な「現実の鏡」として見がちである。	◎誤りを指摘→B ◎音読、相互評価がスムーズになった ◎コピー…相互評価後、追加なし→A ◎表現を指摘、意味・意図は相互評価後、記述→B (A)	◎A←→◎B ◎「現実の鏡」と表現した筆者の意図を理解できたか→A ◎表現者の意図が表現の工夫・特徴となって表れる…→B		○
	第4時	1 正誤をとらえる例文 2 正確な音読（正誤） 3 効果的な表現の指摘（美醜） 4 要点まとめ マスメディアの情報は、現実の鏡ではないので、他人との語り合いを大切にしたい。	◎正誤を指摘→A ◎音読、相互評価に意欲的 ◎表現を指摘、意図を記述→A *相互評価に積極的、追加あり	◎A←→◎B ◎表現者の意図が…→B		○
学習のまとめの段階	第5時	1 キーワードの選択（適否） 2 要点まとめ 3 感想 情報伝達の速い地球村で生活する私たちは、マスメディアに加工された現実を忠実な現実の鏡として見がちだが、大切なのは、人と語り合い認識し合うことである。 私たちに「マスメディアを通じた現実世界」が何であったのかが理解できました。なぜ筆者が「地球村」や「情報の震源地」など独自の言葉を使ったのか最初は理解できなかったけど、授業をしていくうちに私たちにどう伝えるかの工夫だということが分かってきて楽しかった。これからは表現に気をつけていきたい。	◎選択理由も適切→A *理由の中に、筆者の意図に係わる記述 ◎相互評価時に積極的に発言し、グループをリード	◎表現者の意図が…→A		▲
	<p><考察> 正誤をとらえる力をみていくと、正誤の例文において記述がC→B→Aと伸びている。また、正確な音読では常に自己評価Bであるが、意欲的な取り組みであり、ペア側の評価ではAに変化している。（練習も行っていったようだ）適否をとらえる力は、キーワードの選択理由、意図にふれる記述までありA。美醜をとらえる力は、効果的な表現の指摘で、筆者の意図にふれる記述をするようになってきた。これは自己評価にも表れており、グループ内での相互評価の影響によるところが大きいと考えられる。このグループは、リーダーがメンバーの考えをよく引き出しており、活発な相互評価だった。その中で、I自身も積極的に発言する場面もあった。感想には、表現の特徴やその表現の裏側にある筆者の意図に対する意識が表れている。</p>					

【図6】抽出生徒の様子と考察

ウ 単元の学習内容の定着状況

「マスメディアを通じた現実世界」の学習終了時に学習内容（読む能力）の定着状況を見るために学校で使用している市販テストを用いて単元テストを実施し、その結果を次頁【表10】にまとめた。

このことから、中学校国語科の説明的な文章において、表現の正誤・適否・美醜をとらえる視点を明確にし、生徒自身の相互評価を取り入れた表現活動を行って指導することは、生徒に読む能力の定着を図ることができるという点でも有効であったと考えられる。

【表 10】学習内容の定着状況

N=72 (単位：人)			
正答率 観点等	80%以上	50%以上 80%未満	50%未満
読む能力	49	18	5
割合	68.1%	25.0%	6.9%

5 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する研究のまとめ

これまで、手だての試案に基づく授業実践を行い、実践結果の分析と考察をとおして、その妥当性を検討してきた。その結果から、成果と課題についてまとめる。

(1) 成果

ア 説明的な文章の読解指導において、表現の正誤・適否・美醜をとらえる視点を明確にすることによって具体的な指導が可能になり、生徒が表現の適切さや微妙な違いについて考え、筆者の意図に迫ることができるようになった。また、そのことが「読む能力」の育成にもつながった。

イ 説明的な文章の読解指導において、読む・書く・発表するなど相互評価を取り入れた表現活動を行うことによって、生徒たちの豊かなかかわり合いをとおして互いの気づきを促すことができ、表現のとらえ方への理解を深めさせることができた。

(2) 課題

ア 表現の正誤・適否・美醜をとらえる視点を明確にした指導方法として、指導過程及び学習シートの内容について工夫を図る必要がある。

イ 表現の正誤・適否・美醜をとらえる力の育成のための相互評価について、グループ編制及び指導を工夫する必要がある。

以上のことから、課題はあるものの、表現の正誤をとらえる力・表現の適否をとらえる力・表現の美醜をとらえる力の育成を図ることができたと考える。授業後の生徒の感想文にも、一つ一つの表現を大切に、その効果を考えて表現しようという姿勢の伝わってくるものが多かった。

したがって、中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導において、表現の正誤・適否・美醜をとらえる視点を明らかにし、生徒自身の相互評価を取り入れることは、有効な手だての一つであると考えられる。

V 研究のまとめと今後の研究推進について

1 研究のまとめ

この研究は、中学校国語科において、相互評価を取り入れた表現活動をとおして、豊かな言語感覚の育成をめざした指導について明らかにし、国語科の学習指導の改善に役立てようとするものであった。その結果、仮説が妥当であったことが確かめられた。なお、成果として次のことが得られた。

(1) 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした指導に関する基本構想の立案

まず、言語感覚を評価できるものとして定義することに工夫を要した。特に、表現の美醜をとらえる力に関して、説明的な文章における表現の効果をとらえることによって検証可能なも

のにしたこと、また、言語感覚をとらえる視点として、言語感覚にかかわる言語事項から「語句、文、文章」の3項目に絞ったことが基本構想を立案する上での成果だったと考える。

(2) 中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導に関する実態調査及び調査結果の分析と考察

手だての試案を作成するに当たって、国語の学習時間における生徒の話し合いに対する意識の実態を把握するために、実態調査を行った。2学級の特性を明らかにすることによって相互評価を行う際のグループ編制等の留意点を手だての試案に盛り込むことができた。

(3) 相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案の作成

基本構想及び実態調査から明らかになった手だての試案作成上の留意点を基にして、相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案を作成することができた。表現の正誤・適否・美醜を表現の特徴として生徒に意識させることや言語感覚をとらえる学習シートの課題のポイントを手だての試案に盛り込むことができた。

(4) 授業実践及び実践結果の分析と考察

授業実践をとおして、言語感覚をとらえる視点を明確にして相互評価を取り入れた表現活動を行うことによって、互いに生き生きとかかわり合いながら筆者の意図に迫ろうとする生徒の姿を見ることができた。また、その様子を各力の育成状況とともに授業実践の概要にまとめることができた。相互評価を取り入れた表現活動を行う手だての試案が、表現の正誤・適否・美醜をとらえる力の育成に効果があることが認められた。

授業実践の分析と考察により、表現の正誤・適否・美醜をとらえる力の育成が認められ、手だての試案の有効性を確かめることができた。

(5) 豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導に関する研究のまとめ

中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導について、成果と課題を明らかにすることができた。

2 今後の研究推進について

中学校国語科における豊かな言語感覚の育成をめざした学習指導を他の文種・領域に広げ、指導過程を工夫するなど計画的な指導を図っていきたい。なお、その参考資料として、【補充資料6】の指導計画を掲載する。

<おわりに>

長期研修の機会を与えてくださいました関係諸機関の各位並びに所属校の諸先生方と生徒のみなさんに心から感謝申し上げます、結びのことばといたします。

【参考文献】

有沢俊太郎(1998),『教育実践場面分析演習「国語」の研究Ⅲ－「詩歌教材」で子どもの「言語感覚」をどう育てるか－平成9年度教育研究特別経費研究成果報告書』,上越教育大学言語系教育研究系国語コース

甲斐睦朗(1988),「言語感覚の概念」『国語国文学報』46集,愛知教育大学国語国文学研究室

田近洵一・井上尚美編(2004),『国語教育用語辞典(第三版)』,教育出版

東京都開発委員会(1979),『言語感覚にかかわる「言語事項」系統表(試案)』

森田信義(1989),『筆者の工夫を評価する説明的文章の指導』,明治図書

【補充資料】

《目 次》

【補充資料1】

手だての試案作成のための実態調査問題……………資 1

【補充資料2】

表現の正誤・適否・美醜をとらえる力の育成状況をみる事前・事後テスト問題……………資 1

【補充資料3】

「マスメディアを通じた現実世界」の学習指導案

(第1時～第5時／5時間扱いの展開案を含む) ……………資 3

【補充資料4-①】

「マスメディアを通じた現実世界」学習シート①(表・裏)……………資 7

【補充資料4-②】

「マスメディアを通じた現実世界」学習シート②(表・裏)……………資 8

【補充資料4-③】

「マスメディアを通じた現実世界」学習シート③(表・裏)……………資 9

【補充資料4-④】

「マスメディアを通じた現実世界」学習シート④(表・裏)……………資 10

【補充資料4-⑤】

「マスメディアを通じた現実世界」学習シート⑤(表・裏)……………資 11

【補充資料4-⑥】

「マスメディアを通じた現実世界」学習シート⑥……………資 12

【補充資料5】

生徒の感想文……………資 12

【補充資料6】

「魚を育てる森」の指導計画……………資 13

【補充資料1】手だての試案作成のための実態調査問題

三年（ ）組（ ）番 名前	<p style="text-align: center;">このアンケートは、国語の学習について、みなさんが、ふだんどのように思っているのかを知り、これからの学習に役立てるために行うものです。テストではありませんので、ふだんの学習を思い出しながら答えてください。</p> <p>① あなたは、話し合い活動のとき、友達の発言に対して、自分の意見や感想を話したいと思いますか。次のア～エから一つ選んで、記号を○で囲んでください。</p> <p>ア 話したいと思う イ どちらかという話し合いと思う ウ どちらかという話し合いと思わない エ 話したいと思わない</p> <p>② 前の質問で、ウかエを選んだ人は、その理由を次の <input style="width: 50px; height: 20px;" type="text"/> 内に書いてください。</p> <p>二 ① 次のア～ウの話し合い活動のうちで、あなたが友達の発言に対して、自分の意見や感想を話しやすいと思う順に「 1 」の中に番号を書いてください。</p> <p>ア ペア（二人組）での話し合い活動 「 」 イ グループでの話し合い活動 「 」 ウ 学級全体での話し合い活動 「 」</p> <p>② 国語の授業中に、グループでの話し合い活動をするしたら、何人で話し合うのが話しやすいですか？ 次のア～ウから、あなたの考えに近いものを選んで、記号に○を付けてください。</p> <p>ア 3～4人 イ 5～7人 ウ 8～10人</p>
------------------	---

【補充資料2-①】表現の正誤・適否・美醜をとらえる力をみる事前・事後テスト（正誤）

<p style="text-align: center;">国語の表現についてのテスト</p> <p>一次の文章中には全部で十一カ所の誤った表現があります。一つは——線部の「で」です。それ以外の十カ所の誤った表現を指摘し、それぞれ正しい表現に書き直さない。</p>	<p style="text-align: center;">* 今年で一年生は、部活動への入部希望者が少ないと先生が言った。学級に話し合ったところ、部活動に当てる時間があつたら、予習・復習に当てる時間に当てたほうがよいという意見が、大きな話題になりました。</p> <p>確かに、私たちにとって勉強は何にもまして大切だと思ふ。したがって、それだけで十分であろうか。入部を希望している私に対して、部活動を経験した兄が、忍耐力を養うことができたり、何でも話し合える友人を得たことなどを話してくれた。兄は、たぶんそこに部活動の意義を認めている。さらに、兄は、勉強と部活動が両立しなくては学校生活の意味がない。</p> <p>私は、たとえどんなに苦しくてやりとおし、勉強と部活動を両立させながら、決して学校生活は充実したものにするつもりだ。</p>
--	---

【補充資料2-②】表現の正誤・適否・美醜をとらえる力をみる事前・事後テスト（適否）

二 次の文章中の①～⑩の（ ）に入る語句は何か。文脈を考え、ふさわしい語句を後の語群から一つずつ選んで記号で答えなさい。

日本は（①）。大陸と呼ばれるヨーロッパでさえ、日本の緯度の幅にすっぽりが入ってしまうのである。東西の幅は若干狭いが、もしこの経度の幅があったらしたら大変だ。気候の差はあまりないにしろ時差が（②）なる。たいして面積のない同じ国の中で、いく通りも時間が存在することになり、（③）になるだろう。南北に長くて気候の差が激しいということは、風土のひだが深く、風景にも変化があるということだ。人々の暮らし向きが様々であるということだ。（④）、旅をするにはおもしろいということになる。

情報が東京に集中し、東京で決められた規格で、全国的に街づくりが行われている今日この頃である。新幹線の駅に降りても、駅名の看板を見なければ、今どこにいるのか分からなくなりそうなのである。しかしながら、丹念に旅をしてみるとまだ日本は深い。日本は元氣なのである。風土につちかわれた（⑤）は、テレビの電波だけでは消せないものがある。

風土に立っている人の精神に映る風景の中に旅すること。旅をくり返した果てに様々なものが見えてくる。旅はくり返せばくり返すほど（⑥）のだ。

旅とは、一人がいるところではせいぜい点で、いくら動き回っても点を結ぶ線にすぎない。子供の頃、雑誌に点がまるで無造作に散らばっているページがあった。点の脇には番号がついていて、番号順に点を（⑦）いくと、ライオンや馬や、いろんな形が浮かんでくる。点の数が多いほど、絵が（⑧）になるというわけである。

旅が点だというのはそういう意味だ。旅をくり返すということは点を多くすることだ。私打つ点には番号がふつてあるわけではないが、ここまで生きてきた（⑨）として、日本の像が（⑩）浮かび上がってきたのだ。

* 語群

- | | | | | |
|---|---------|----------|---------|---------|
| ① | 大きい | イ 広い | ウ 狭い | エ 小さい |
| ② | 大きく | イ 小さく | ウ 激しく | エ 細かく |
| ③ | 敵しいこと | イ 混乱すること | ウ 煩雑 | エ 混雑 |
| ④ | だから | イ しかし | ウ つまり | エ したがって |
| ⑤ | 差異 | イ 相違 | ウ 気質 | エ 文化 |
| ⑥ | おもしろくなる | イ 楽しくなる | ウ 悲しくなる | エ 快感になる |
| ⑦ | 結んで | イ 打って | ウ つないで | エ 描いて |
| ⑧ | 緻密 | イ すばらしく | ウ 美しく | エ 精密 |
| ⑨ | 証し | イ 証拠 | ウ 成果 | エ 答え |
| ⑩ | ゆつくりと | イ くつきりと | ウ はつきりと | エ ぼんやりと |

【補充資料2-③】表現の正誤・適否・美醜をとらえる力をみる事前・事後テスト（美醜）

三 次の文章では、さまざまな表現が効果的に使われています。それぞれの表現がどのような効果を生み出しているか答えなさい。

① 人類が著しい発展を遂げ、地球上のあらゆる場所に生活空間を広げて以来、各所で他の生き物とのかかわり合いが問題になってきた。それはヒトによる自然の開発であり、自然との闘いであった。ところが、発展すぎたヒトの文化は、自然破壊という自戒の念をうむに至った。

② ところで、生き物の世界には、自然界のルールともいうべき侵しがたい法則がある。その結果、生き残るものだけが残ることになる。昔から、「弱肉強食」とか「適者生存」とかいわれた世界がある。ヒトは、このような運命論的な生き方を認めたがらなかった。だから、なんとか自分たちが生きのびようとたゆまぬ努力を続け、今日の発達した社会を築いてきた。ヒトの脳が最も出ず知能は、狩猟に道具を用いることで強い敵に対し、農耕牧畜で食糧不足の恐れを克服した。さらに、病気を治すことを知り、住居による快適な住みかをうみ出した。そのこと自体はすばらしい能力であり、他の動物にはまねのできないことである。

③ しかし、このようなヒトの所行は、地球上の他の生き物たちに、何の影響も与えずに成しとげられたことだろうか。例えば、広大な耕作地を考えてみよう。一面のムギ畑もよし、ここにムギが作られていなかったら、他のさまざまな草の菜園となっていたであろう。ムギという均一な植物相ではなく、多様な草原の植物相になるに違いない。つまり、ムギのために、他の植物は犠牲になったのである。しかもそれは植物どうしの生育の力関係ではない。ヒトがムギの肩を持ち、他の植物を排除したのである。

（奥井一満の文章による）

【補充資料2-④】表現の正誤・適否・美醜をとらえる力をみる事前・事後テスト（解答用紙）

		組 番	言語表現についてテスト解答用紙
三			
例：接続詞が多く使われ、前後のつながりを示すなど、文章の展開をスムーズにしている。(接続詞以外の部分で答えなさい)	⑤	⑬	() → 「 J」
	④	⑭	() → 「 J」
	③	⑮	() → 「 J」
	②	⑯	() → 「 J」
	①	⑰	() → 「 J」
二			
	⑩	①	() → 「 J」
	⑨	②	() → 「 J」
	⑧	③	() → 「 J」
	⑦	④	() → 「 J」
	⑥	⑤	() → 「 J」
	⑤	⑥	() → 「 J」
	④	⑦	() → 「 J」
	③	⑧	() → 「 J」
	②	⑨	() → 「 J」
	①	⑩	() → 「 J」
	⑩	⑪	() → 「 J」
	⑨	⑫	() → 「 J」
	⑧	⑬	() → 「 J」
	⑦	⑭	() → 「 J」
	⑥	⑮	() → 「 J」
	⑤	⑯	() → 「 J」
	④	⑰	() → 「 J」
	③	⑱	() → 「 J」
	②	⑲	() → 「 J」
	①	⑳	() → 「 J」
	⑩	㉑	() → 「 J」
	⑨	㉒	() → 「 J」
	⑧	㉓	() → 「 J」
	⑦	㉔	() → 「 J」
	⑥	㉕	() → 「 J」
	⑤	㉖	() → 「 J」
	④	㉗	() → 「 J」
	③	㉘	() → 「 J」
	②	㉙	() → 「 J」
	①	㉚	() → 「 J」
	⑩	㉛	() → 「 J」
	⑨	㉜	() → 「 J」
	⑧	㉝	() → 「 J」
	⑦	㉞	() → 「 J」
	⑥	㉟	() → 「 J」
	⑤	㊱	() → 「 J」
	④	㊲	() → 「 J」
	③	㊳	() → 「 J」
	②	㊴	() → 「 J」
	①	㊵	() → 「 J」
	⑩	㊶	() → 「 J」
	⑨	㊷	() → 「 J」
	⑧	㊸	() → 「 J」
	⑦	㊹	() → 「 J」
	⑥	㊺	() → 「 J」
	⑤	㊻	() → 「 J」
	④	㊼	() → 「 J」
	③	㊽	() → 「 J」
	②	㊾	() → 「 J」
	①	㊿	() → 「 J」
	⑩	㊿	() → 「 J」
	⑨	㊿	() → 「 J」
	⑧	㊿	() → 「 J」
	⑦	㊿	() → 「 J」
	⑥	㊿	() → 「 J」
	⑤	㊿	() → 「 J」
	④	㊿	() → 「 J」
	③	㊿	() → 「 J」
	②	㊿	() → 「 J」
	①	㊿	() → 「 J」
	⑩	㊿	() → 「 J」

【補充資料3-①】「マスメディアを通じた現実世界」の学習指導案

第3学年国語科学習指導案

指導期間 平成16年8月30日～9月15日
 指導学級 花巻市立湯本中学校第3学年
 A組 男子 22名 女子 16名 計 38名
 B組 男子 23名 女子 16名 計 39名
 指導者 重 永 秀 寿 (長期研修生)

1 単元名 情報社会をみつめる 「マスメディアを通じた現実世界」

2 単元について
 (1) 単元について
 本単元は、情報の受け手として、マスメディアからの情報が現代社会で果たす役割や、無意識のうちに関与している影響力を認識し、さらには、パソコン通信などによる情報発信の主体として、自己の表現に対する責任を自覚することをねらいとしている。
 なお、本単元の指導に当たって、学習指導要領の第2学年及び第3学年の「読むこと」のイ「書き手の論理の展開の仕方を的確にとらえ、内容の理解や自分の表現に役立てること」、ウ「表現の仕方や文章の特徴に注意して読むこと」に基づき、豊かな言語感覚の育成に取り組むものである。

(2) 教材について
 「マスメディアを通じた現実世界」は、テレビというマスメディアを通して、人々がまるで一つの村の住人であるかのように、世界全体の話題、動向に配慮して生きた現代社会の姿を浮き彫りにする。筆者は、テレビが決して「現実の鏡」でないことを認識し、そこから情報が必要なこと、送り手の意図のもと、どんな表現効果をもって送り出されているのかをよく認識する必要があることを訴える。さらには、身近にいる人たちとの語り合いこそが、メディアから間接的に得た情報の現実性や意味合いを実感していくうえで欠かせないことを伝える。
 本教材は、調査結果などを踏まえ専門的な見地から分析した論議文で、だれもがいつでも経験しうる具体的な事例をもとに、深い洞察に基づく見解が述べられている。

(3) 生徒について
 まじめで着ち着いた生徒が多い。男子は少々幼いところがあるが、授業中の受け答えが素直である。特に女子の学習成績は抜群である。この学年全体にいえることだが、授業の課題に対しては活発に答えるものの、場面や状況に応じて自分の意見や心情を適切な言葉で表現することが苦手である。これは、様々な文章の中で具体的な表現をとおして内容を的確に読み取ったり、表現の効果を実感したりする言語感覚が十分に育成されていないことによるものと考えられる。
 なお、実態調査からは、64.9%の生徒が話し合うことによりあまり抵抗感をもってないことが分かっている。

(4) 指導にあたって
 指導にあたって、本単元では、言語感覚をとらえる視点を明確にし、教材文の読解指導の中で表現の正誤・適否・美醜など生徒自身の言語感覚に気付かせる相互評価を取り入れた表現活動を行うことによって、豊かな言語感覚の育成に迫りたいと考える。
 生徒自らの言語感覚に気付かせるために、生徒一人一人が表現の正誤・適否・美醜の視点をもち

【補充資料 3-②】「マスメディアを通じた現実世界」学習指導案

に設定した課題に取り組むことが大切である。自分なりの言語感覚のとらえをしっかりもたせることで、後の相互評価が活発なものになり、親友及び自分の言語感覚に気付いていくことにつながる。なお、課題には学習シートを活用して取り組ませたい。

言語感覚をとらえるための相互評価においては、個別に取り組む学習シートを活用し生徒自身の言語感覚について振り返らせることで、互いの言語感覚の優れところや豊かさ気付くことができると考える。学習形態は、3～4人の小グループが適当と考えられ、それは実態調査によって裏付けられている。教師が生徒の相互評価を共感的に受容しながらも適切なアドバイスを与えることにより、一層豊かな言語感覚の育成が図られると考える。

5 単元の目標
文中の表現の特徴について理解し、文章の展開に即して筆者の考えをとらえることができる。(読むこと)

6 単元の指導計画(全5時間)
第一次 課題の把握(1時間)
・学習目標をもつ……………1時間
第二次 課題の追究(3時間) ……表現の特徴から筆者の意図を理解する
・第1段落課題追究……………1時間
・第2段落課題追究……………1時間
・第3段落課題追究……………1時間
第三次 学習のまとめ(1時間)
・要旨をまとめ、感想を書く……………1時間

7 評価について

読むこと	評価規準 文中の表現の特徴から要 いて理解し、文章の展開に 即して筆者の考えをとら える	具 体 の 評 価 基 準		
		A (十分満足できる)	B (おおむね満足できる)	C (ゆがみを感じる)の生徒へ支援
言語 感 覚	・適切な文・文章から 表現の正統さに気付く ・特徴的な表現から表 現の適否・美観に気 づく	文中の表現の特徴から要 旨をまとめ、筆者の主張に 対して自分の意図をもつて 対して自分の意図をもつて いる	文章に即して読み、難語 句等の意味から文章の要 旨をまとめている	難語句、キーワードのとら え方を指導する
		・例文から表現の正統に ついて理解し、それを 意識して音読している ・比喩や抽象的な概念を 表す語など特徴的な表 現の効果について理解 している	・例文から表現の正統に 気付いている ・比喩や抽象的な概念を 表す語など特徴的な表 現を見つけている	表現の特徴を見つけ る視点を再度確認させ ながら、表現の正統・適 否・美観に限る特徴を 明らかにさせる

【補充資料 3-③】「マスメディアを通じた現実世界」学習指導案 (展開第1時 / 5時間)

8 展開案<第1時>
(1) 目標
・学習のねらいを理解し、視点的に表現の特徴に即して読み取ることができる。

(2) 展開

学習過程	学 習 活 動	評価及び指導上の留意点
導入 5分	1 学習のねらいを理解する ・表現には、各表現者の意図が表わされて と、読者に伝えようとする様々な工夫がされて いることを理解する 2 学習課題を把握する 表現の特徴に即して読み取りをし ていこう	・ 「マスメディアをとおした現実世界」 ・ 表現の中で、表現や文章 の展開の特徴をとらえて筆者 の考えに迫ることを確認す る ・ 学習シートで確認させる
展開 35分	2 題名から筆者の意図に迫る(表現の美観をとらえる力の育成) 3 範読・黙読 「マスメディアを通じた現実世界」がた だの「現実世界」とどう違うのかという 視点をもって、全文を読み通す ・ 範読 4 音読(表現の正統をとらえる力の育成) 音読練習をする。	・ 学習シートに記入させる ・ 特に「～を通じた」という表 現に着目させる * 表現の工夫をとらえて、表現 の美観をとらえる力を育成す る ◎ 小グループで相互評価させる ・ 前半部、後半部、結論部の3 段階構成を確認する ・ 範読後、題名に込められた筆 者の意図について確認する ◎ ペアで相互評価しながら、音 読練習をさせる * 正確な音読をとおして、表現 の正統をとらえる力を育成す る
終 末 10分	5 難語句から筆者の意図に迫る(美観をとらえる力の育成) 6 自己評価 7 次時の予告 8 課題提示	* 各自が選んだ難語句をとおし て、表現の適否・美観をとら える力を育成する ・ 学習シートに記入させ、考え させる ◎ 学習シートで自己評価させる ・ 次時への意欲を大切にさせる

(3) 評価…視点的に表現の特徴に注意して読むことができたか。

【補充資料3-④】「マスメディアを通じた現実世界」学習指導案（展開案第2時／5時間）

9 展開案＜第2時＞

(1) 目標
・前半部の表現の特徴について理解し、文章の展開に即して筆者の考えをとらえることができる。

(2) 展開

学習過程	学習活動	評価及び指導上の留意点
導入 7分	1 新出漢字等を確認する 2 学習課題の把握 前半部の表現の特徴から筆者の考えを読み取ろう	・フラッシュカードで確認する ・よりよい表現を身につけることをめざしていくことを確認する ・学習シートを配布する
展開 3分	2 音読及び例示 (表現の正誤をとらえる力の育成) 3 課題追究1 (表現の美醜をとらえる力の育成)	・ 正確な音読を心がけさせる ・ 学習シートに記入させる ◎ ペアで相互評価させる * 音読と例文の学習をとおして、表現の正誤をとらえる力を育成する * 「地球村」という表現をとおして、表現の美醜をとらえる力を養う
展開 3分	4 課題追究2 (表現の適否・美醜をとらえる力の育成)	◎ 小グループで相互評価させる ・ 学習シートに記入させる * 各自が選んだ表現をとおして、表現の適否・美醜をとらえる力を育成する
終末 20分	5 まとめ 後半部の要点をまとめる 相互評価し合った表現を学級全体で出し合い、それをもとに前半部の要点をまとめる 6 自己評価 7 次時の予告と課題提示	◎ 小グループで相互評価させる ・ 学習シートに記入させる ・ 要点をまとめる際には、字數制限をする。(50字以内) ◎ 学習シートで自己評価させる ・ 次時への意欲を大切にさせる

(3) 評価…前半部の表現の特徴から、筆者の意図をとらえることができたか。

【補充資料3-⑤】「マスメディアを通じた現実世界」学習指導案（展開案第3時／5時間）

10 展開案＜第3時＞

(1) 目標
・後半部の表現の特徴について理解し、文章の展開に即して筆者の考えをとらえることができる。

(2) 展開

学習過程	学習活動	評価及び指導上の留意点
導入 4分	1 新出漢字等の確認 2 生徒の「地球村」の言い換えを紹介する 3 学習課題の把握 後半部の表現の特徴から筆者の考えを読み取ろう	・ フラッシュカードで確認する ・ 言い換えを紹介する ・ 学習シートを配布する
展開 3分	4 音読及び例示 (表現の正誤をとらえる力の育成) 5 課題追究1 (表現の美醜をとらえる力の育成)	* 音読と例文の学習をとおして、表現の正誤をとらえる力を育成する ・ 正確な音読を心がけさせる ・ 学習シートに記入させる * 「現実の鏡」という表現をとおして、表現の美醜をとらえる力を育成する
展開 3分	6 課題追究2 (表現の適否・美醜をとらえる力の育成)	◎ 小グループで相互評価させる ・ 学習シートに記入させる * 各自が選んだ表現をとおして、表現の適否・美醜をとらえる力を育成する
終末 10分	7 まとめ 後半部の要点をまとめる 相互評価し合った表現をもとに後半部の要点をまとめる 8 自己評価 9 次時の予告と課題提示	◎ 小グループで相互評価させる ・ 学習シートに記入させる ・ 要点をまとめる際には、字數制限をする。(50字以内) ◎ 学習シートで自己評価させる ・ 次時への意欲を大切にさせる

(3) 評価…後半部の表現の特徴から、筆者の意図をとらえることができたか。

【補充資料 3-⑥】「マスメディアを通じた現実世界」学習指導案（展開案第4時／5時間）

11 展開案<第4時>
(1) 目標
・結論部の表現の特徴について理解し、文章の展開に即して筆者の考えをとらえることができる。
(2) 展開

学習過程	学習活動	評価及び指導上の留意点
導入 5分	1 新出漢字等の確認 2 前時の想起 3 学習課題の把握 4 キーワードをもとに要旨をまとめよう	・フラッシュカードで確認させる ・豊かな感覚を味わわせる ・よりよい表現を身につけることをめざしていくことを確認する
展開 30分	4 キーワードの選択をおおして全文を熟読してキーワードを選ぶ ・ それぞれ選んだキーワードについてグループで相互評価する 5 キーワードをもとに要旨をまとめる ・ キーワードをもとに80字以内で要旨をまとめる ・ 要旨（キーワード）について学級全体で相互評価する	* キーワードの選択をおおして表現の適否・美醜をとらえる力を育成する ・ 学習シートに記入させる ・ 選んだ理由を説明できるようにさせる ◎ 小グループで相互評価させる
終末 11分	6 感想 7 学習のまとめ 8 自己評価	・ 要点をまとめる際には、字数制限をする。 ・ 表現の特徴に対する意識の高まりを確認させる ・ よりよい表現をするためのポイントについて学習シートでまとめる ◎ 学習シートで自己評価させる

(3) 評価…結論部の表現の特徴から、筆者の意図をとらえることができたか。

【補充資料 3-⑦】「マスメディアを通じた現実世界」学習指導案（展開案第5時／5時間）

12 展開案<第5時>
(1) 目標
・キーワードをもとに要旨をまとめ、筆者の考えをとらえることができる。
(2) 展開

学習過程	学習活動	評価及び指導上の留意点
導入 5分	1 漢字の確認 2 前時の想起 3 学習課題の把握 4 キーワードをもとに要旨をまとめよう	・フラッシュカードで確認させる ・豊かな感覚を味わわせる ・よりよい表現を身につけることをめざしていくことを確認する
展開 30分	4 キーワードの選択をおおして全文を熟読してキーワードを選ぶ ・ それぞれ選んだキーワードについてグループで相互評価する 5 キーワードをもとに要旨をまとめる ・ キーワードをもとに80字以内で要旨をまとめる ・ 要旨（キーワード）について学級全体で相互評価する	* キーワードの選択をおおして表現の適否・美醜をとらえる力を育成する ・ 学習シートに記入させる ・ 選んだ理由を説明できるようにさせる ◎ 小グループで相互評価させる
終末 15分	6 感想 7 学習のまとめ 8 自己評価	・ 要点をまとめる際には、字数制限をする。 ・ 表現の特徴に対する意識の高まりを確認させる ・ よりよい表現をするためのポイントについて学習シートでまとめる ◎ 学習シートで自己評価させる

(3) 評価…キーワードをもとに要旨をまとめ、筆者の考えをとらえることができたか。

【補充資料4-①】「マスメディアを通じた現実世界」学習シート①（表・裏）

三年国語学習シート「マスメディアを通じた現実世界」①

三年 組 番 名前

◆表現の特徴に即して、内容を読み取っていきましょう！

1 表現の特徴に即した読み取りとは：

表現には、表現者の意図（考え）が表われます。説明的な文章においても、表現者は読者に様々な物事を説明しようと工夫しています。それが、各文章・表現の特徴となつて表われます。つまり、その特徴に即した読み取りをすることが、筆者の意図を理解することにつながるのです。

2 表現の特徴をみつけるための視点例

文章	文	語句
文章の構成	文の成分の順序・位置など	語句の使い方
表現技法		
文章の展開、指示語・接続語の使い方など		
類義語、擬態語、抽象的な語句（学術用語、難語句）、文末（助詞、助動詞）など		
主語・述語の関係、修飾・被修飾の関係など		

3 題名から筆者の意図に迫ろう。

◎ 「マスメディアを通じた現実世界」という表現から、どのような筆者の意図を感じるか、書いてみよう。

これ以外にも、筆者の意図（考え）が隠れ表わされた表現があります。どんどん探してみよう。

4 構成を確認しよう。

◎ 三段構成	形式段落（番号）
一（前半部）	
二（後半部）	
三（結論部）	

5 難語句から筆者の意図に迫ろう。

◎ 「マスメディアを通じた現実世界」の本文中から、筆者の意図に関係すると思われる難語句を拾い出して、その意味を調べよう。

5	4	3	2	1	難語句	意味

6 今日の学習について自己評価しよう。

2	1	評価項目	評価
		表現の特徴を見つける視点について理解できたか。	
		題名や難語句から筆者の意図（考え）について考えることができたか。	

A とても良い
B 良い
C あまり良くない
D 悪い

【補充資料4-②】「マスメディアを通じた現実世界」学習シート② (表・裏)

三年国語学習シート「マスメディアを通じた現実世界」②

三年 組 番 名前

◆前半部の表現の特徴から筆者の考えを読み取ろう

1 音読：今日の音読：ペアになって、正確な音読をしよう。

評 価	自分	パートナー1	パートナー2

*A～とても良い
B～良い
C～あまり良くない
D～良くない

2 今日の例文：正しい表現について考えよう

	わたしは 休日にも かわらず 早朝から 起き出して、 楽しみに
	していた 宇宙中継を 家族と いっしょに 見たことでした。

3 「地球村」という表現について考えよう。

① どんな意味か考えてみよう。

② 別の言葉（表現）で言い換えるとしたら、どんな言葉（表現）がいいか考えてみよう。

4 「地球村」以外で、効果的に使われている表現（言葉）を見つけよう。

	効果的に使われている表現	どんな意味か（筆者の意図は…）
3		
2		
1		

5 前半部の要点を五十字以内でまとめよう。

6 今日の学習について自己評価しよう。

	評価項目	評価
3	例文の特徴について理解できたか。	
2	「地球村」と表現した筆者の意図（考え）を理解できたか。	
1	表現者の意図（考え）が表現の工夫や特徴となつて表われることを理解できたか。	

A～とても良い
B～良い
C～あまり良くない
D～悪い

【補充資料4-③】「マスメディアを通じた現実世界」学習シート③（表・裏）

三年国語学習シート「マスメディアを通じた現実世界」③

三年 組 番 名前

◆後半部の表現の特徴から筆者の考えを読み取ろう

1 音読：今日の音読：ペアになって、正確な音読をしよう。

評 価	自分	パートナー1	パートナー2

* A とても良い
B 良い
C あまり良くない
D 良くない

2 今日の例文：正しい表現を心がけよう。

取り上げたニュースは、その重要性を強調するために、視覚に訴えたり、印象に残るような言葉を用いて、さまざまな工夫に凝らして加工することになります。

3 「現実の鏡」という表現について考えよう。

① どんな意味か考えてみよう。（何をどのようにたとえたものか）

② 別の言葉（表現）で言い換えるとしたら、どんな言葉（表現）がいいか考えてみよう。

4 「現実の鏡」以外の表現で、効果的に使われている表現（言葉）を見つけよう。

3	2	1	効果的に使われている表現	どんな意味か（筆者の意図は：）

5 後半部の要点を五十字以内でまとめよう。：マスメディアの情報には、どんな特徴（問題）があるのか。

マ	ス	メ	デ	イ	ア	の	情	報	に

6 今日の学習について自己評価しよう。

3	2	1	評価項目	評価
			例文の特徴について理解できたか。	
			「現実の鏡」と表現した筆者の意図（考え）を理解できたか。	
			表現者の意図（考え）が表現の工夫や特徴となって表われることを理解できたか。	

A とても良い
B 良い
C あまり良くない
D 悪い

【補充資料4-④】「マスメディアを通じた現実世界」学習シート④（表・裏）

三年国語学習シート「マスメディアを通じた現実世界」④

三年 組 番 名前

◆結論部の表現の特徴から筆者の考えを読み取ろう

1 音読：今日の音読：ペアになって、正確な音読をしよう。

評価	自分	パートナー1	パートナー2

*A)とても良い
B)良い
C)あまり良くない
D)悪い

2 今日の例文：より良い表現のために

	このように、わたしたちの身近にあるマスメディアは、わたしたちにとって世界がどう見えるか、世界をどう見るかに大きなかわりをもっている。しかし、今わたしたちが考えなければならないのは、次の二つのことを考えなければなりません。
--	--

4 効果的に使われている表現（言葉）を見つけよう。

--	--	--	--

効果的に使われている表現
どんな意味か？（筆者の意図は：）

5 結論部の要点を、五十字以内でまとめよう。：マスメディアが発する情報の受け手としての「わたしたち」に、どんなことを提案しているのか。

--	--	--	--

マスメディアの情報

6 今日の学習について自己評価しよう。

評価項目	評価
1 例文の特徴について理解できたか。	
2 表現の特徴から筆者の意図（考え）が理解できたか。	
3 表現者の意図（考え）が表現の工夫や特徴となつて表われることが理解できたか。	

A)とても良い
B)良い
C)あまり良くない
D)悪い

【補充資料4-⑤】「マスメディアを通じた現実世界」学習シート⑤（表・裏）

三年 国語学習シート「マスメディアを通じた現実世界」⑤

三年 組 番 名前

◆キーワードをもとに要旨をまとめよう

1 キーワードを三つ選ぼう。

	3	2	1	キーワード	選んだ理由

2 要旨を八十字以内でまとめよう。

4 「マスメディアを通じた現実世界」について感想を書こう。
* 具体的な表現を取り上げ、筆者の考えについて書くこと

5 今日の学習について自己評価しよう。

	3	2	1	評価項目	評価
	よりよい表現をめざすための三つのポイントについて理解できたか。	表現の特徴を意識して文章を読むようになったか。	表現者の意図（考え）が表現の工夫や特徴となって表われることを理解できたか。		

A とても良い
B 良い
C あまり良くない
D 悪い

【補充資料4-⑥】「マスメディアを通じた現実世界」学習シート⑥

三年国語学習シート「マスメディアを通じた現実世界」⑥

三年	組	番	
----	---	---	--

「表現の特徴」についてのまどろみ(やり取り表現のために)

1 「正しい表現」について

* 次の①②の文を比較してみよう。

① 母に手紙を書く。

② 母が手紙を書く。

* ③の文の誤りについて考えてみよう。

③ 僕の弟がいらっしやいました。

2 「ふさわしい表現」について

* 次の④⑤の文の()にふさわしい言葉を考えてみよう。

④ 甲子園の大歓声の中、ピンチヤーが(球・ボール)を投げる。

⑤ 彼女は、テニスの(進化・上達)が早い。

3 「効果的な表現」(工夫を凝らした表現)について

* 次の⑥⑦の文の——線部の言葉の効果について考えてみよう。

⑥ 小鳥がさえずるようになわわている。

⑦ わたしは行きたい、タイムマシナード。

【補充資料5】生徒感想文

終と前半部にかけてくる「地球村」という言葉が、とてもいいなあと感じました。筆者は、「地球村」を世界は身近なものごと一つであるというように考えていました。この言葉は、これからの世界にとって大切なことだと思えます。今いろんな問題があって、飢えている人や困っている人がいるから、その人達を助けるために、地球まるごとの人々が協力して一つになって、問題を解決していくという意味で「地球村」という言葉はとても大切でいいと感じました。

昔我何気なく耳にしたリ、見たリして居る「情報」というものの中心にこの雑点や私達に必要なとされて居ることを「現実の鏡」や「現実のなかや」。「共有性の保証人」などといった的確な表現で文章に表している。筆者はこれからの「情報社会」に向けて知っておいてほしいことや必要となっていることを読者に伝えたいのだのではないかなと思ふ。

私は、この「マスメディアを通じた現実世界」について勉強して、「語り合」という共同作業という表現がとても良いと思いました。テレビなどかぐの情報だけをうのみにしないで、他の人とそのテレビなどから得た情報について語り合い、新たな考えを発見したりするのはとても良いと思います。そして、その語り合いを「共同作業」と表現しているとこそが私は気に入りました。これから、文章を讀むときは、表現の特徴を意識して讀みたいと思います。

【補充資料6】「魚を育てる森」の指導計画

1 学年 単元「魚を育てる森」の指導計画(5時間版)		*各々の段階的指導の参考資料	
時	学習指導目標	学 習 活 動	相互評価を取り入れた表現活動及び指導上の留意点
課題把握	<p>◎学習のねらいを理解し、学習目標をもつことがで</p> <p>◎学習のねらいを、著者の意図を理解し、学習目標をもつことが出来る</p>	<p>○学習のねらいを理解し、学習目標をもつ</p> <p>・表現には、各表現者の意図が表われていること、読者に伝えようとする意図が工夫されていることを理解する</p> <p>・「魚を育てる森」の中で、表現や文節の展開に特徴をとおして筆者の考えに迫ることを確認する</p> <p>○「魚を育てる森」という題名から、ただの「森」とどう違うのかという視点を持つて、全文を読みとらす。(簡語一横書き)</p>	<p>学習目標をもたせる</p> <p>・表現の特徴に即した読み取りをしていくことを確認させる</p> <p>表現の視点を確認させる</p> <p>・「魚を育てる」という言い方に着目して話し合わせる</p> <p>・簡語句を拾い出させ、文章に即した意味を調べさせる</p>
課題追究	<p>◎表現の特徴から著者の意図を理解することから出来る</p> <p>(表現の美観をとらえる力の育成)</p>	<p>○「正統の側面」等をおおして、表現の正統をとらえるポイントについて確認する。</p> <p>・格助詞の誤り、主語・述語の関係のねじれ、並列の関係の乱れ、文末の不統一等について確認する。</p> <p>○表現(構成)の特徴を確認する</p> <p>・事実一問題(問題提起)→追究</p> <p>○全文を音読して、文章の筋道を把握する</p> <p>・正確な言語を心がける</p>	<p>正統の側面をおおして表現の正統をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シート及び紙面指導で確認させる</p> <p>・筋道立てた文章を意図させ</p> <p>正確な言語をおおして、表現の正統をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p>
3	<p>◎表現の特徴から著者の意図を理解することから出来る</p> <p>(表現の美観をとらえる力の育成)</p>	<p>○序論の部分で、接続詞等の使い方をとおして、表現の通語をとらえる力を培うとともに、大森外地帯が砂漠に変わり、さらにクロマツの防砂林になるまでの変遷をとらえる</p> <p>・2段落「ところが」と「しかし」、その他の接続詞を比較し、筆者の驚きを確認する</p> <p>・4段落「さらに」と「そして」を比較し、木が切り倒された歴史を確認する</p> <p>・4段落「ついに」と「そして」を比較し、最後に達した結果を確認する</p> <p>○本論の部分で、接続詞等の使い方をとおして、表現の通語をとらえる力を培うとともに、森・湖沼士の役割をとらえる</p>	<p>接続詞等の使い方をとおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>・内容を把握させるために、接続詞等を基にした文図を作らせる</p> <p>・要旨をまとめる際には3枚限る</p>

3	<p>◎表現の特徴から著者の意図を理解することから出来る</p> <p>(表現の美観をとらえる力の育成)</p>	<p>◎効果的に使われている表現をおおして、著者の意図を確認することから出来る</p> <p>(表現の美観をとらえる力の育成)</p> <p>・「森が消え、海は死んだ」「土壌を陰地につなぎ留めることで、海の生物を守る」「森が海の貝や魚を育てている」など効果的に使われている表現をおおして、著者の意図について考える</p> <p>・15段落「...といわれている」、16段落「...考えてみる」</p> <p>○筆者の意図について考え、キーワードを選択する</p> <p>・全文を振り返り、キーワードを5つ選択する</p> <p>・それぞれ選んだキーワードについてグループごとに相互評価する</p>	<p>効果的に使われている表現をおおして、表現の美観をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>キーワードの選択をおおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>・選択した理由を説明できるようにさせる</p> <p>キーワードの選択をおおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・要旨をまとめる際には3枚限る</p>
4	<p>◎表現の特徴から著者の意図を理解することから出来る</p> <p>(表現の美観をとらえる力の育成)</p>	<p>◎効果的に使われている表現をおおして、著者の意図を確認することから出来る</p> <p>(表現の美観をとらえる力の育成)</p> <p>・「森が消え、海は死んだ」「土壌を陰地につなぎ留めることで、海の生物を守る」「森が海の貝や魚を育てている」など効果的に使われている表現をおおして、著者の意図について考える</p> <p>・15段落「...といわれている」、16段落「...考えてみる」</p> <p>○筆者の意図について考え、キーワードを選択する</p> <p>・全文を振り返り、キーワードを5つ選択する</p> <p>・それぞれ選んだキーワードについてグループごとに相互評価する</p>	<p>効果的に使われている表現をおおして、表現の美観をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>キーワードの選択をおおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>・選択した理由を説明できるようにさせる</p> <p>キーワードの選択をおおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・要旨をまとめる際には3枚限る</p>
5	<p>◎キーワードをもとに要旨をまとめることから出来る</p>	<p>◎効果的に使われている表現をおおして、著者の意図を確認することから出来る</p> <p>(表現の美観をとらえる力の育成)</p> <p>・「森が消え、海は死んだ」「土壌を陰地につなぎ留めることで、海の生物を守る」「森が海の貝や魚を育てている」など効果的に使われている表現をおおして、著者の意図について考える</p> <p>・15段落「...といわれている」、16段落「...考えてみる」</p> <p>○筆者の意図について考え、キーワードを選択する</p> <p>・全文を振り返り、キーワードを5つ選択する</p> <p>・それぞれ選んだキーワードについてグループごとに相互評価する</p>	<p>効果的に使われている表現をおおして、表現の美観をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>キーワードの選択をおおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>・選択した理由を説明できるようにさせる</p> <p>キーワードの選択をおおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・要旨をまとめる際には3枚限る</p>
5	<p>◎キーワードをもとに要旨をまとめることから出来る</p>	<p>◎身近な生活や日常の生花の中の行為と自然とのかわりについて考えたことをまとめる</p> <p>・考えを発表し、自然と人間との関係について考えを深める</p>	<p>効果的に使われている表現をおおして、表現の美観をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>キーワードの選択をおおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・学習シートに記入し、相互評価させる</p> <p>・選択した理由を説明できるようにさせる</p> <p>キーワードの選択をおおして、表現の通語をとらえる力を育成する</p> <p>・要旨をまとめる際には3枚限る</p>